

阿波銀行 ディスクローチャー誌 資料編 2023

コーポレートデータ

当行グループの事業の内容／連結子会社の状況	2
組織図	3
役員一覧	4
株主の状況／従業員の状況	5
中小企業の経営支援と地域活性化	6
主要な業務の内容	8
主要な商品・サービス	9
手数料一覧	13
店舗等一覧	14
あわぎんインターネット・モバイルバンキング／休日相談への対応状況	17

連結情報

事業の概況	18
主要な経営指標等の推移	18
連結財務諸表	19
連結貸借対照表	
連結損益計算書	
連結包括利益計算書	
連結株主資本等変動計算書	
連結キャッシュ・フロー計算書	
連結リスク管理債権額	29
連結自己資本比率	30
セグメント情報等	30
会計監査人の監査の状況	31

単体情報

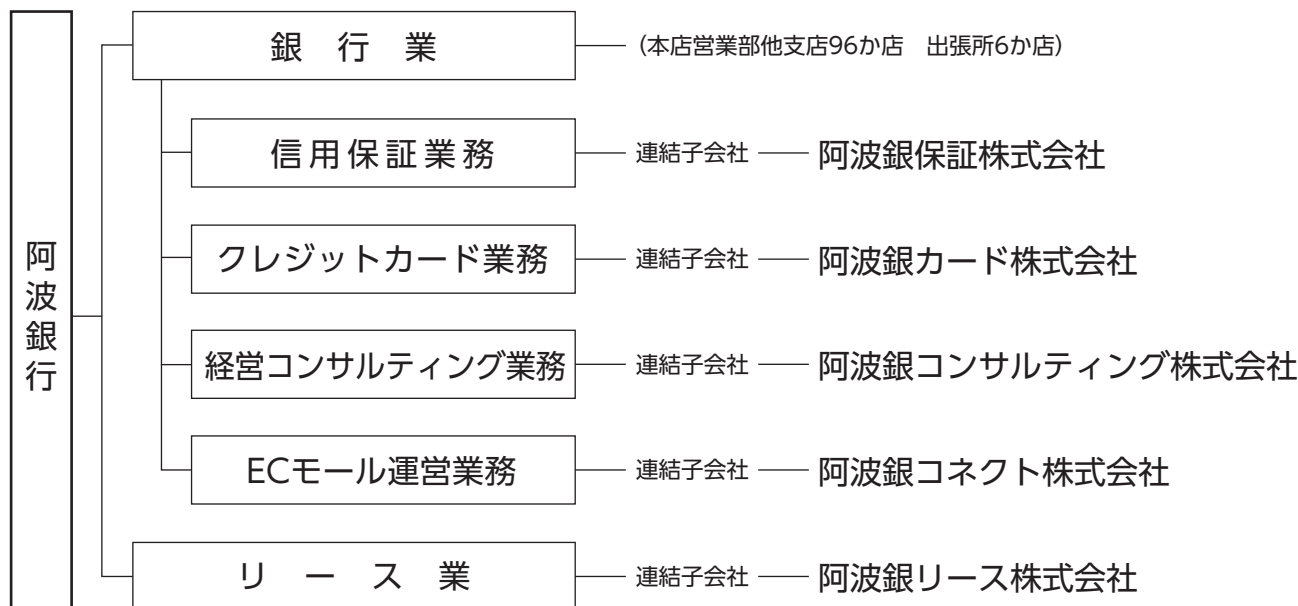
事業の概況	32
主要な経営指標等の推移	32
財務諸表	33
貸借対照表	
損益計算書	
株主資本等変動計算書	
リスク管理債権額	39
資産査定額	39
単体自己資本比率	39
損益の状況	40
営業の状況	42
預金業務	
貸出業務	
証券業務	
信託業務	
国際・内国為替業務	
有価証券等の時価情報	47
有価証券関係	
金銭の信託関係	
その他有価証券評価差額金	
デリバティブ取引情報	50
暗号資産	51
会計監査人の監査の状況	51

コーポレートデータ 当行グループの事業の内容／連結子会社の状況

■当行グループの事業の内容

(2023年6月30日現在)

当行グループは、銀行業務を中心にリース業務などの金融サービスを提供しております。



(注) 上記のほか、「あわぎん成長企業投資事業有限責任組合」(連結子会社)、「あわぎん6次産業化投資事業有限責任組合」(非連結子会社)、「四国アライアンスキャピタル株式会社」(持分法非適用の関連会社)および「Shikokuブランド株式会社」(持分法非適用の関連会社)を有しております。

■連結子会社の状況

(2023年6月30日現在)

会社名 所在地・電話番号	設立年月日 資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権に対する 当行の所有割合 (%)
阿波銀保証株式会社 〒770-0904 徳島市新町橋二丁目25番地 (088) 623-3617	1975年6月 2日 110百万円	銀行業	100.00
阿波銀カード株式会社 〒770-0901 徳島市西船場町二丁目12番地 (088) 653-8100	1990年2月 6日 150百万円	銀行業	100.00
阿波銀コンサルティング株式会社 〒770-0904 徳島市新町橋二丁目25番地 (088) 654-0321	2014年7月31日 100百万円	銀行業	100.00
阿波銀コネクト株式会社 〒770-8601 徳島県徳島市西船場町二丁目24番地の1 (阿波銀行本部ビル内) (088) 656-7936	2021年1月15日 100百万円	銀行業	100.00
阿波銀リース株式会社 〒770-8053 徳島市沖浜東三丁目46番地 (088) 622-2424	1974年1月23日 180百万円	リース業	100.00
あわぎん成長企業投資事業有限責任組合 〒770-0904 徳島市新町橋二丁目25番地	2018年10月 4日 1,456百万円	銀行業	—

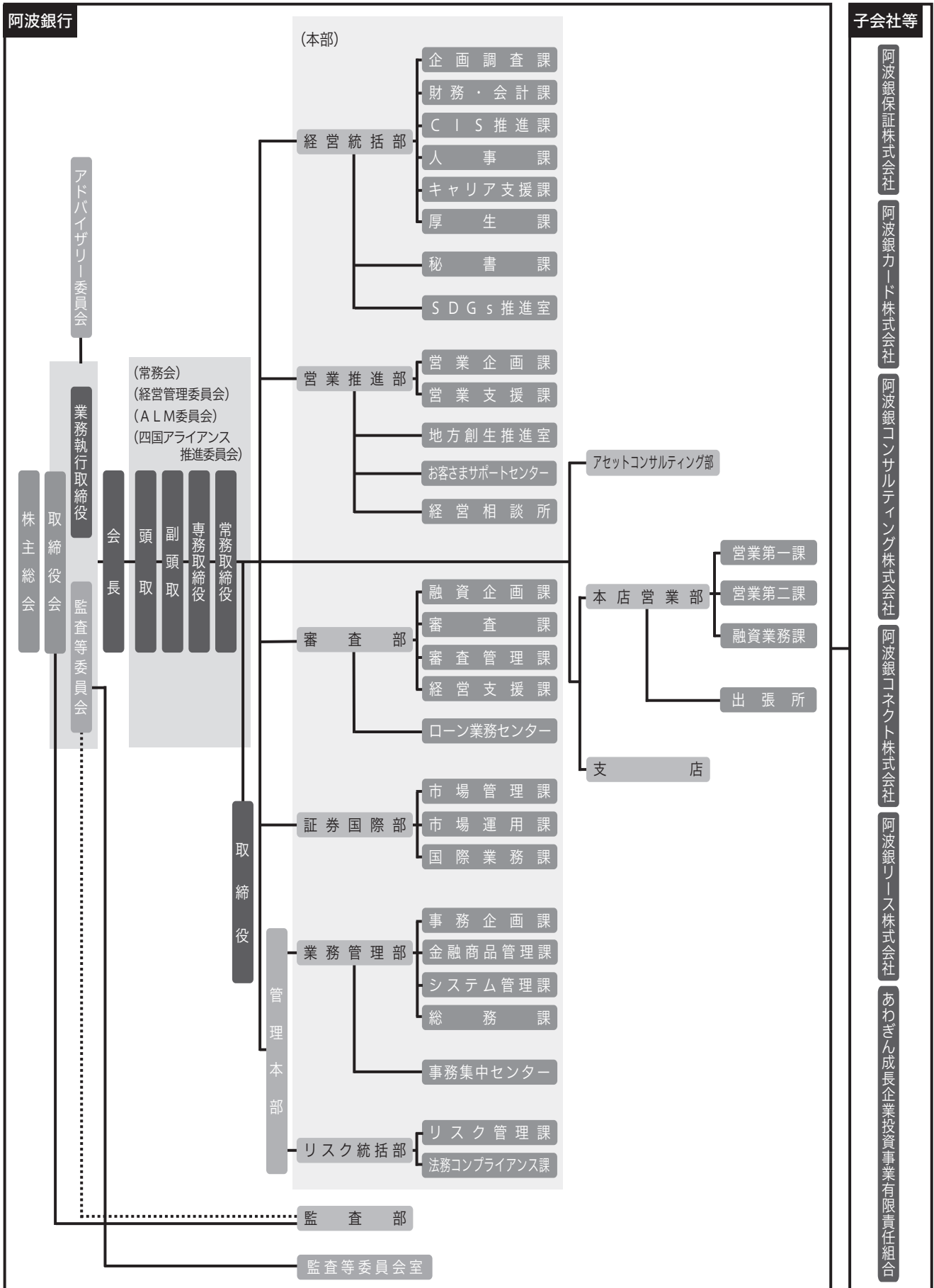
(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 上記連結子会社のうち、特定子会社に該当する会社はありません。

3. 上記連結子会社のうち、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4. 阿波銀リース株式会社については、連結財務諸表に占める経常収益の割合が100分の10を超えており主要な連結子会社に該当しますが、当連結会計年度におけるセグメント情報のリース業の経常収益に占める同社の経常収益の割合が100分の90を超えておりますので、主要な損益情報等の記載を省略しております。

組織図



(2023年6月30日現在)

役員一覧

取締役

取締役会長

なが おか すずむ
長岡 奨

取締役頭取

ふく なが たけ ひさ
福永 丈久

常務取締役

やま と しろう
大和 史郎

常務取締役

にし ひろ かず
西 大和

常務取締役

やま した まさ ひろ
山下 真弘

常務取締役

み かわ ひろ あき
三河 広明

取締役

(徳島市内広域エリア母店長兼本店営業部長兼
両国橋支店長兼かちどき橋支店長)

い とう てる あき
伊藤 輝明

取締役監査等委員

取締役監査等委員

おお にし やす お
大西 康生

取締役監査等委員

はま お かつ や
浜尾 克也

社外取締役監査等委員

その き ひろし
園木 宏

社外取締役監査等委員

よね ぼやし あきら
米林 彰

社外取締役監査等委員

の だ せい こ
野田 聖子

社外取締役監査等委員

や べ たけし
矢部 剛

社外取締役監査等委員

はし づめ まさ き
橋爪 正樹

執行役員

執行役員

(関東広域エリア母店長兼東京支店長)

ばん どう かつ ひろ
板東 克浩

執行役員

(関西広域エリア母店長兼鴨島支店長)

おか べ とし あき
岡部 敏明

執行役員

(東北広域エリア母店長兼鳴門支店長兼大津支店長)

ただ つ さとし
忠津 聡

執行役員

(営業推進部長)

さ さ ひで き
佐々 英毅

執行役員

(関西広域エリア母店長兼大阪支店長)

ゆ あさ ふみ たけ
湯浅 文健

執行役員

(経営統括部長)

ふじ くら せい じ
藤倉 誠司

執行役員

(県南広域エリア母店長兼阿南支店長兼見能林支店長)

さか た ひろ ゆき
坂田 寛行

執行役員

(中四国広域エリア母店長兼高松支店長兼丸亀支店長)

みや ざき やす のり
宮崎 泰典

コーポレートデータ 株主の状況／従業員の状況

■株主の状況

大株主 (2023年3月31日現在)

(千株、%)

氏名又は名称	住所	所有株式数(発行済株式(自己株式を除く。))の総数に対する所有株式数の割合
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	3,562 (8.69)
株式会社大塚製薬工場	鳴門市撫養町立岩字芥原115番地	1,585 (3.87)
阿波銀グループ職員持株会	徳島市西船場町二丁目24番地の1	1,366 (3.33)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	1,140 (2.78)
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	1,140 (2.78)
大塚製薬株式会社	東京都千代田区神田司町二丁目9番地	932 (2.27)
大昭興業株式会社	徳島市東大工町三丁目16番地	833 (2.03)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	812 (1.98)
日亜化学工業株式会社	阿南市上中町岡491番地100	803 (1.96)
住友生命保険相互会社	東京都中央区八重洲二丁目2番1号	745 (1.81)
計	—	12,921 (31.55)

(注) 1. 当行保有の自己株式は87千株であります。

なお、自己株式には、役員報酬BIP信託が保有する当行株式186千株は含まれておりません。

2. 上記の信託銀行所有株式数のうち、当該銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 3,562千株

株式会社日本カストディ銀行(信託口) 812千株

株式所有者別内訳 (2023年3月31日現在)

(人、単元、%)

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数	—	31	24	1,387	150	3	10,634	12,229	—
所有株式数	—	109,716	3,860	139,261	43,097	5	113,168	409,107	129,300
所有株式数の割合	—	26.82	0.94	34.04	10.54	0.00	27.66	100.00	—

(注) 1. 自己株式87,327株は「個人その他」に873単元、「単元未満株式の状況」に27株含まれております。

2. 役員報酬BIP信託が保有する当行株式が、「金融機関」の欄に1,863単元、「単元未満株式の状況」に37株含まれております。

3. 株式会社証券保管振替機構名義の株式が、「その他の法人」に5単元、「単元未満株式の状況」に80株含まれております。

■従業員の状況

2022年3月期				2023年3月期			
従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均給与月額	従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均給与月額
1,308人	42歳3月	19年0月	379千円	1,320人	42歳9月	19年4月	383千円

(注) 1. 平均年齢、平均勤続年数、平均給与月額は、それぞれ単元未満株式を切り捨てて表示しております。

2. 従業員数には、臨時職員および嘱託は含まれておりません。

3. 平均給与月額は、賞与を除く3月中の平均給与月額であります。

金融ADR制度への対応

当行は、以下の指定紛争処理機関(指定金融ADR機関)と手続実施基本契約を締結しています。当行との取引に関するお問い合わせ・ご意見・苦情等につきましては、当行窓口のほか指定金融ADR機関もご利用いただけます。

〈当行が契約する指定金融ADR機関〉

全国銀行協会(銀行業務)

0570-017109 または 03-5252-3772

全国銀行協会相談室 受付時間

月～金曜日(祝日等除く)午前9時～午後5時

●金融ADR制度とは

金融分野における裁判外紛争解決制度(Alternative Dispute Resolution)のことで、訴訟に代わる、あっせん・調停・仲裁等の当事者の合意に基づく紛争解決方法であり、お客さまと金融機関との間で十分に話し合いをしても、問題が解決しないような場合に利用することができる制度です。

信託協会(信託業務)

☎0120-817-335 または 03-6206-3988

信託相談所 受付時間

月～金曜日(祝日等除く)午前9時～午後5時15分

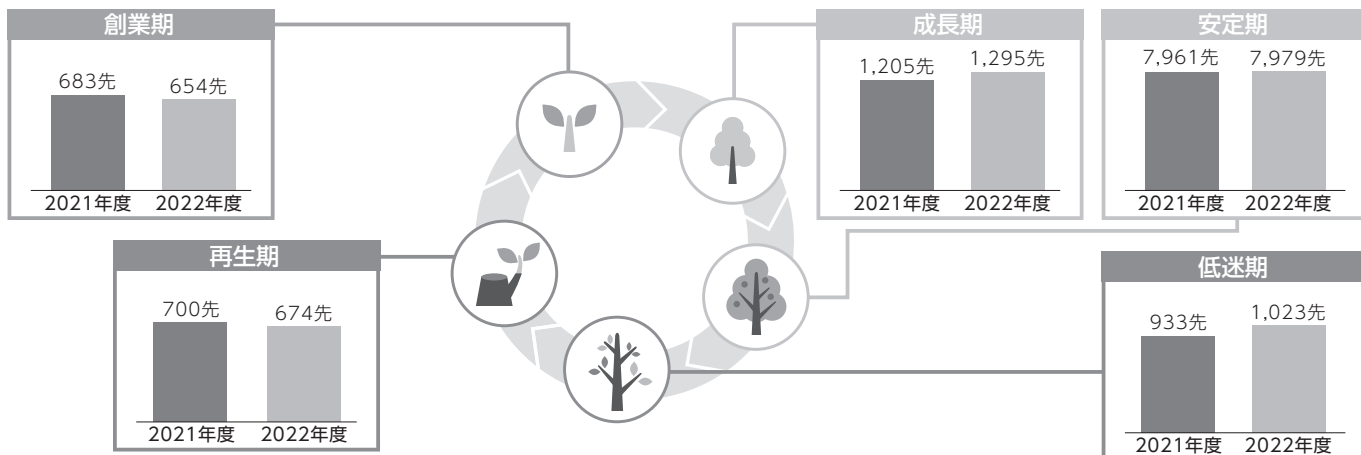
■中小企業の経営支援と地域活性化

【企業のライフステージに応じた包括的コンサルティングへの取組み】

当行は、企業のライフステージに応じたニーズ・経営課題に対し、きめ細かなコンサルティング提案を行っています。

企業のライフステージ^(※)別の融資先数

※企業のライフステージは、創業年月・売上高の平均増加率等で区分しています。



ライフステージに応じたソリューションの提供・コンサルティング機能の発揮

- ファンドの活用
- 創業関連の補助金申請支援
- 産学連携
- 外部支援機関との連携

- 販路開拓支援
- 海外ビジネス支援
- 企業誘致支援
- 自社株対策
- M&A支援
- 事業承継対策

- 経営改善計画策定支援
- DDS・DIPファイナンス

【お客さまの事業内容を適切に理解する取組み】



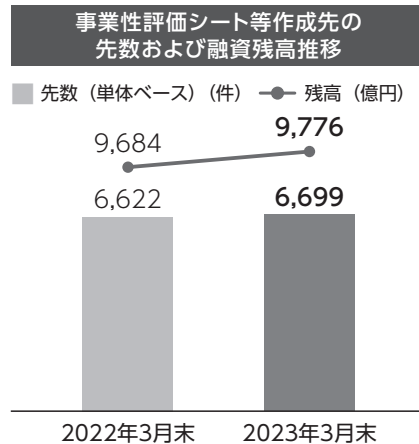
財務分析に加えて、経営環境や将来性などお客さまの事業内容の適切な理解に努めています。お客さまのさらなる企業価値向上に向け、対話を通じた事業性評価シート^(※)等の作成による経営課題の共有に取組んでいます。

●事業性評価シート等作成先

対前期比

77 件増加

※ お客さまとの対話を通じて当行が作成する独自の事業性評価の分析資料



【付加価値の高い金融サービスへの取組み】



「目利き力」向上へのさまざまな取組みを通して、付加価値の高い金融サービスを提供しています。お客さまの企業価値の向上に貢献し、お客さまとお互いに成長・発展できる好循環をめざしています。

●融資先の経営指標等の改善状況

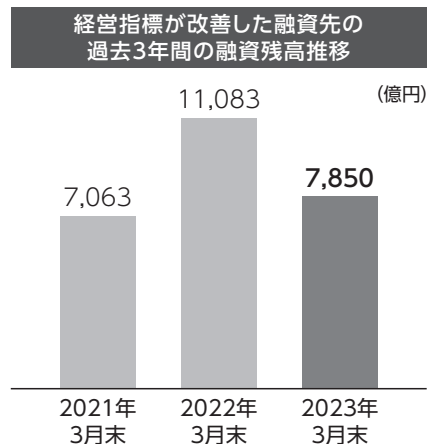
(2023年3月末)

メイン融資先数^(※1)

9,257 件のうち

経営指標等^(※2)が改善した融資先数

5,148 件



※1 企業をグループ単位とした当行融資先 (14,121件) のうち借入残高に占める当行の割合が1位の先

※2 売上高・営業利益率・労働生産性のうちいずれかの向上、または就業者数が増加した先

【経営者保証に関するガイドラインへの取組方針】

●経営者保証に関する取組方針

「当行は、法人のお客さま向けのご融資に際し、原則として経営者保証はいたしません。」ただし、以下の要件に該当しない場合は、経営者保証を求める場合があります。

- ① 法人と経営者個人の資産・経理が明確に分離されていること
- ② 法人と経営者との間の資金のやりとりが、社会通念上適切な範囲を超えないこと
- ③ 法人から適時適切に財務情報等が提供されていること
- ④ 法人のみの資産・収益力で借入返済が可能と判断し得ること
または、経営者等から十分な物的担保の提供があること

上記要件に該当せず、経営者保証を求める場合にも、「どの部分が十分でないために保証契約が必要になるのか」、「どのような改善を図れば保証契約の変更、解除の可能性があるのか」を具体的かつ丁寧に説明いたします。

●保証債務整理に関する取組方針

「当行は、お客さまから保証債務整理のお申し出があった場合や、万一、保証履行を求める場合には、お客さまの資産状況などを勘案したうえで、履行請求の範囲を検討し、保証債務免除要請について適切かつ誠実な対応に努めます。」

ガイドラインの詳細につきましては、以下のURLをご参照ください。
 全国銀行協会：https://www.zenginkyo.or.jp/adr/sme/guideline/
 日本商工会議所：https://www.jcci.or.jp/sme/assurance.html

【経営者保証に関するガイドラインに係る取組状況】

●新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合

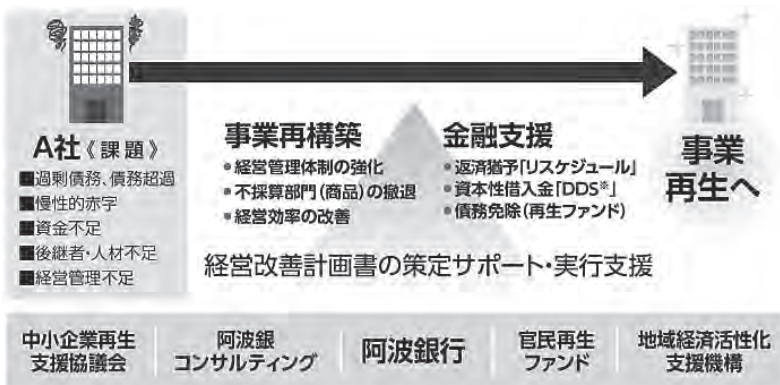
項目	2022年 4月～ 2022年 9月末	2022年10月～ 2023年 3月末
① 新規に無保証で融資した件数	3,069件	2,968件
② 経営者保証の代替的な融資手法を活用した件数	0件	0件
③ 新規融資件数	6,097件	5,883件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合 (①+②/③) × 100)	50.3%	50.5%

●事業承継時における保証徴求割合(4類型)

項目	2022年 4月～ 2022年 9月末	2022年10月～ 2023年 3月末
旧経営者との保証契約を解除し、かつ、新経営者との保証契約を締結しなかった割合	12.6%	11.5%
旧経営者との保証契約を解除する一方、新経営者との保証契約を締結した割合	29.9%	47.9%
旧経営者との保証契約は解除しなかったが、新経営者との保証契約は締結しなかった割合	54.7%	37.5%
旧経営者との保証契約を解除せず、かつ、新経営者との保証契約を締結した割合	2.9%	3.1%

【事業再生を支援】

経営改善支援を目的に専門スタッフを配置し、経営改善計画の策定や多様な事業再生スキームを活用することで、お客さまの経営改善・事業再生支援に取り組んでいます。



●経営改善支援に向けた取組状況(2022年度)

経営改善支援取組み率	3.3%
(経営改善支援取組み先数：135件／期初債務者数：4,067件)	
ランクアップ率	8.1%
(ランクアップ先数：11件／経営改善支援取組み先数：135件)	
再生計画策定率	70.4%
(再生計画策定先数：95件／経営改善支援取組み先数：135件)	

※【DDS】
金融機関が既存の貸出債権を一般の債権よりも返済順位の低い「劣後ローン」に切り替える手法のことです。

1. 預金業務

- (1) 預金
当座預金、普通預金、無利息普通預金、貯蓄預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金、非居住者円預金、外貨預金等を取扱っています。
- (2) 譲渡性預金
譲渡可能な預金を取扱っています。

2. 貸出業務

- (1) 貸付
手形貸付、証書貸付および当座貸越を取扱っています。
- (2) 手形および電子記録債権の割引
銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形および電子記録債権の割引を取扱っています。

3. 有価証券投資業務

預金の支払準備および資金運用のため国債、地方債、社債、株式、その他の証券に投資しています。

4. 内国為替業務

送金為替、当座振込および代金取立等を取扱っています。

5. 外国為替業務

輸出、輸入および外国送金その他外国為替に関する各種業務を取扱っています。

6. 社債の受託等

社債の受託業務等を行っています。

7. 信託業務

公益信託
教育助成、国際研究協力、自然環境の保全等の公益を目的として設定する信託です。この信託は、金銭信託・有価証券の信託等の形態により受託しています。

8. 附帯業務

- (1) 代理業務
 - ① 日本銀行代理店および日本銀行歳入代理店
 - ② 地方公共団体の公金取扱業務
 - ③ 勤労者退職金共済機構等の代理店業務
 - ④ 株式払込金の受入代理業務および株式配当金、公社債元利金の支払代理業務
 - ⑤ 日本政策金融公庫等の代理貸付業務
 - ⑥ 信託代理店業務
 - ⑦ 損害保険窓口販売業務
 - ⑧ 生命保険窓口販売業務
- (2) 保護預りおよび貸金庫業務
- (3) 有価証券の貸付
- (4) 債務の保証(支払承諾)
- (5) 金融商品仲介業務
- (6) M&A仲介業務
- (7) 確定拠出年金運営管理業務
- (8) リース仲介業務
- (9) 遺言信託・遺産整理媒介業務
- (10) 店頭デリバティブ取引業務

(2023年5月31日現在)

コーポレートデータ 主要な商品・サービス

●預金

商品名		しくみと特徴	
流動性預金	当座預金	会社や商店のお取引に安全で便利な小切手や手形をご利用いただくための預金です。	
	普通預金	給与・年金・配当金の自動受取り、公共料金・校納金の自動支払いなどにご利用いただけます。お引出しや残高照会にはキャッシュカードのご利用が便利です。	
	無利息普通預金(決済用預金)	全額預金保険で保護されます。「無利息」であること以外は従来の普通預金と同じです。新規口座のご開設のほか既存口座からのお切替えも可能です。	
	通知預金	まとまったお金の短期間のお預入れにご利用いただけます。	
	スーパー貯蓄預金	お預入れ金額に応じた金利が設定され、普通預金と同様にいつでもお引出しできる商品です。	
	あわぎん教育資金贈与専用口座 ふれ藍	祖父母等の贈与者が、子・孫等の受贈者へ教育資金を目的として贈与した資金を、受贈者1人あたり1,500万円(学校等以外へのお支払いについては500万円)までを、贈与税の非課税とすることができます。	
	あわぎん結婚・子育て資金贈与専用口座 みんなの笑顔	祖父母等の贈与者が、子・孫等の受贈者へ結婚・子育て資金を目的として贈与した資金を、受贈者1人あたり1,000万円(結婚関係費用については300万円)までを、贈与税の非課税とすることができます。	
譲渡性預金(NCD)		5,000万円から短期間で運用でき、譲渡が可能です。	
定期預金	自由金利型定期預金	スーパー定期	おいくらからでもお預入れいただけます。個人のお客さまにはお利息を6カ月ごとに複利計算するお得な複利型もあります。
		スーパー定期300	300万円からの資金運用にご利用いただける商品です。個人のお客さまにはお利息を6カ月ごとに複利計算するお得な複利型もあります。
		大口定期	1,000万円以上のまとまった資金の運用にご利用いただける商品です。
	あわぎんグッドプレミアム退職金コース	6カ月以内に支給された退職金の資産運用にご利用いただける商品です。預け入れ期間は1年もしくは3年に限らせていただきます。	
	利息分割受取型定期預金	お預入れ期間中にお利息を分割してお受取りいただける定期預金です。定期預金の種類・期間に応じた利率を適用させていただきます。	
	ニューしあわせ期日指定定期預金	お預入れ期間に応じ、1年ごとに複利計算する定期預金です。1年の据置期間後は何回でもご自由にお引出しでき便利です。(一部お引出しの場合1万円以上)	
	変動金利定期預金	お預入れ期間中に適用される金利が、金利情勢に応じて6カ月ごとに変動する定期預金です。	
年金定期預金	年金お受取りまでの据置期間に応じて、まとまった資金を安全に運用しながら年金方式で受取っていただく商品です。		
積立型預金	財形預金	お勤め先の財形制度を通じ、給料やボーナスからの天引きで、自動的にまとまった財産形成ができます。財形住宅預金・財形年金預金は、合わせて貯蓄残高550万円までお利息が非課税となります。	
	積立式定期預金 たまるくん	毎月自動的にお客さまが指定された額の積立ができます。積立した個々の定期預金を「おまとめ日」に自動的に合算します。	
	定期積金	毎月自動的にお客さまが指定された額の積立ができます。毎月の積立額を一定とする〈定額式〉と、満期の目標額を決めて積立てる〈目標式〉の2タイプがあります。	
複合型口座	総合口座	普通預金と定期預金に、定期預金などを担保とする当座貸越機能を組み込み、1冊の通帳に「貯める」「使う」「借りる」の3つの機能を備えた便利な商品です。	

(2023年5月31日現在)

コーポレートデータ 主要な商品・サービス

●主な個人向けローン等

ローン名		資金のお使いみちなど	ご融資額	ご融資期間	
住宅 関連 ローン	住宅ローン (固定・変動金利選択型)	・住宅用の土地購入、住宅の建設・購入、 増改築資金および諸費用 ・他金融機関からの住宅資金借入の借換え	100万円～1億円	1年～40年	
	あわぎん固定金利型総合住宅ローン (あわぎん35全期間固定)	・住宅用の土地購入、住宅の建設・購入、 増改築資金および諸費用 ・他金融機関からの住宅資金借入の借換え	100万円～1億円	1年～35年	
	長期固定金利型住宅ローン (フラット35)	・住宅の建設、購入資金および付帯工事費用 ・住宅金融支援機構との提携商品 ・他金融機関からの住宅資金借入の借換え	100万円～8,000万円	15年～35年	
	無担保型住宅ローン	・他金融機関からの住宅資金借入の借換え ・住宅の建築・増改築	100万円～1,000万円	1年～15年	
	住まいのリフォームローン	・住宅の増改築、家庭用の太陽光発電導入費用等、 住環境の整備改善に必要な資金 ・空き家の取り壊し等工事費用	10万円～1,000万円	15年以内	
	住宅ローン長期火災保険	火災による損害だけでなく、台風等自然災害や日常生活における事故等、損害から住まいを守る保険です。			
お 使 い み ち 自 由 な ロ ー ン	カード ローン	自由(事業性資金は除きます)	あわぎんスマートネクスト	10万円～800万円(10万円単位)	3年(自動更新)
	カード ローン		パワーアップカードローン	10万円・30万円・50万円(3種類)	
	カード ローン		カードローンエース	50万円・100万円(2種類)	
	ローン		ワイドローン(フリープラン) (阿波銀保証型)・ (クレディセゾン保証型)	10万円～500万円	6カ月～10年
	ローン		住宅サポートローン	10万円～500万円	6カ月～20年 (300万円以下は15年以内)
防 災 金	防災ローン	・防災および災害復旧に必要な資金 ・空き家解体・空き家リフォームに必要な資金	10万円～500万円	6カ月～10年	
車 関 連 ロ ー ン	ワイドローン(マイカープラン)	・マイカーの購入、維持にかかる費用および 免許取得費用	10万円～1,000万円	6カ月～10年	
教 育 関 連 ロ ー ン	ワイドローン(教育プラン) (阿波銀保証保証型)・ (ジャックス保証型)	高校以上の学校に納付する学費および 下宿代等の生活費を含む学資資金	カードローン型 30万円～500万円 証書貸付型 30万円～1,000万円	カードローン型 6カ月～17年 証書貸付型 6カ月～17年	
	教育ローン (日本政策金融公庫)	中学校卒業以上のお子さまの対象となる 教育施設における入学資金・在学費用など	お子さまお1人につき350万円以内 (一定の要件に該当する場合は 450万円以内)	18年以内	

(ご注意)ご融資対象に限られる場合や一定の基準を満たす必要のある場合があります。また、年収やこれまでの借入金合計によって、ご融資金額が制限される場合があります。お使いみちは社会的に妥当と認められるものに限ります。

(2023年5月31日現在)

●主な事業者向けローン等

ローン名	資金のお使いみち	ご融資額	ご融資期間
あわぎん産業ローン	事業に必要な設備資金・長期運転資金に最適な長期・大型ローンです。	2億円以内	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん事業応援ローン	事業性評価に基づいたご融資を通じてお客さまのニーズや経営課題を共有し、成長支援に取組むローンで、成長促進型コベンツの取扱いが可能です。	100万円以上	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん企業育成ファンド (グローイングアップ)	創業資金および新たな事業展開、6次産業化支援並びに経営改善に資する資金など地域経済の活性化につながる資金としてご利用いただけるローンです。	3,000万円以内	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん中小企業 応援ファンド	中長期の事業資金に適したローンです。当行の既存借入金のおまとめも可能です。	事業に必要な 資金の範囲内	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん成長 基盤強化ファンド	医療・LED・農林水産ビジネスやアジアをはじめとする国際ビジネスの強化にご利用いただけます。	1,000万円以上	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん事業承継ローン	円滑な事業承継に資する資金需要に適したローンです。自社株の取得や退職金の支払いなどにもご利用いただけます。	1,000万円以上	20年以内
資本性劣後ローン	新型コロナウイルス感染症等の影響を受けた事業者を対象とした、自己資本拡充の需要に対応するローンです。	1,000万円以上	15年以内
あわぎん太陽光発電ローン	太陽光発電設備導入により、温室効果ガス排出削減に積極的に取組む事業者を対象としたローンです。	100万円以上	設備資金17年以内
あわぎんSDGsローン	SDGsの理念に賛同いただいたお客さまを対象としたローンです。	100万円以上	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎんグリーンローン	資金使途を環境改善効果のある事業(グリーンプロジェクト)に限定したローンです。	1,000万円以上	設備資金20年以内
あわぎんソーシャルローン	資金使途を社会課題解決に資する事業(ソーシャルプロジェクト)に限定したローンです。	1,000万円以上	設備資金20年以内
あわぎんサステナビリティ リンクローン	環境保全や持続可能な社会の実現等に向けた経営目標を設定し、その達成状況に応じて金利が変動するローンです。	1,000万円以上	設備資金20年以内 運転資金10年以内
あわぎん事業者カードローン	事業性の当座貸越型ローンです。キャッシュカードにより、休日もCD・ATMからお借入れできます。	2,000万円以内	2年ごとに契約更新
事業資金のご融資	このほかにも当行では、運転資金および設備資金などの企業経営に必要な事業資金のご融資や、徳島県および市町村の各種制度融資、日本政策金融公庫など政府系金融機関の代理貸付、信用保証協会保証によるご融資、棚卸資産などの流動資産を担保とするご融資なども取扱いしております。		

(注)「あわぎんグリーンローン」「あわぎんソーシャルローン」「あわぎんサステナビリティリンクローン」の3商品は、株式会社格付投資情報センター(R&I)より国際的なグリーンローンやソーシャルローン等の原則および環境省のガイドラインに整合的である旨の第三者意見を取得しています。

(2023年5月31日現在)

●国際業務

項目	内容
貿易取引	輸出関係 輸出手形の買取・取立など輸出取引全般を取扱っています。
	輸入関係 輸入信用状の発行、輸入代金の決済など輸入取引全般を取扱っています。
外国送金	電信送金(T.T.) 先方の銀行へ電信で連絡し、お受取人の預金口座に送金します。外国からの送金の受取も取扱っています。
両替	外国通貨(CASH) 米ドルなど外国通貨と日本円との両替を取扱っています。
外貨預金	米ドル、ユーロなどの外貨建預金を取扱っています。種類は普通預金・積立預金・定期預金(為替特約付含)があります。
インパクトローン	米ドル、ユーロなどの外貨によるご融資です。利率は融資の時期・期間・通貨の種類などによって異なります。先物為替予約により円ベースの利回りを確定することもできます。
スタンドバイ L/C	お客さまの海外子会社の海外提携金融機関からの融資に対し保証します。海外進出時の資金調達にご利用ください。
海外進出サポート	海外現地法人設立、海外投資、海外企業の調査等をサポートします。また、海外現地法人設立後の貿易業務、現地通貨建での資金調達についてもお気軽にご相談ください。

(2023年5月31日現在)

●社債の受託等

業務名	しくみと特徴
社債の受託業務等	長期で安定的な資金調達手段の多様化にお応えするため、社債の受託業務等を行っています。

(2023年5月31日現在)

コーポレートデータ 主要な商品・サービス

●生命保険窓口販売業務

取扱商品		しくみと特徴
個人年金保険	定額年金保険	契約時に将来受取る年金額が決まっている保険です。
	変額年金保険	払込保険料の運用実績によって、将来受取る年金額が増減する保険です。運用実績に関わらず、運用期間満了時の年金原資や年金受取総額が保証される商品も取扱っています。
終身保険		万一に備えて死亡保障が一生続く保険です。また、「大切なご家族に資産を残したい、渡したい」といった相続・贈与ニーズにもご利用いただけます。
定期保険		一定の保険期間内にお亡くなりになった場合、死亡保険金を受取れる保険です。
収入保障保険		一定の保険期間中に死亡または高度障害等になった場合に、年金形式で毎月給付金を受取れる保険です。一時金で受取ることも可能です。
医療保険・がん保険		病気やケガ、がんて入院したり、所定の手術を受けた場合等に給付金を受取れる保険です。
介護保険		所定の介護状態と診断された場合等に給付金を受取れる保険です。

(2023年5月31日現在)

●金融商品仲介業務

業務名	しくみと特徴
金融商品仲介	お客様の幅広い資産運用ニーズにお応えるため、野村證券との金融商品仲介口座において、投資信託、株式、債券、ファンドラップ等を取扱っています。また、大和証券・四国アライアンス証券・SBI証券との金融商品仲介も取扱っています。

(2023年5月31日現在)

●信託業務

業務名	しくみと特徴
公益信託	学術・文化・福祉・環境保護などの公益目的のために、法人や個人の篤志家が財産を信託し、当行がお客様に代わって目的に沿った助成事業を行う社会貢献型の信託です。一定の要件を満たす公益信託への拠出金については、税制上の優遇措置が受けられます。
あわぎん遺言代用信託	遺言書を作成することなく、お客様のご資金とニーズに合わせた資産承継を簡単に行うことができます。(お1人さま200万円以上3,000万円以下でお申込みいただけます。)
あわぎん暦年贈与型信託	贈与契約書の作成や振り込みなどのわずらわしい手続き不要で、簡単に生前贈与による資産承継を行うことができます。
あわぎん事業承継信託	企業オーナーが保有する自社株(国内非上場株式)について、承継者を事前に選定しスムーズな自社株承継を行うことができます。
特定贈与信託	特定障がい者の方の生活の安定を図ることを目的とし、ご親族の方々などが財産を信託銀行に信託するもので、信託銀行が管理・運用を行い、特定障がい者の方に生活費や医療費として定期的に金銭を交付する信託です。信託財産6,000万円(特別障がい者以外の特定障がい者の方の場合は3,000万円)までは贈与税が非課税となります。
年金信託	厚生年金基金・確定給付企業年金の各制度は、将来の年金・退職一時金の支払原資を事前に積立てる制度であり、資金負担の平準化が図られるとともに、拠出された資金は社外に確保され、税制上の優遇措置も受けられます。
土地信託	「土地を手放さずに有効に利用したい」という土地所有者に代わって、信託銀行が土地の有効利用に関する事業計画の立案と事業運営を行い、土地所有者に運用成果を配当する信託です。
特定金銭信託(特定金外信託)	機関投資家が信託銀行に金銭を信託し、信託銀行は投資家の指図に基づいて、有価証券への投資を行います。お手持ちの有価証券と区別した経理処理(簿価分離)が可能のため、投資効果の把握が容易になります。
金銭債権の信託	金銭債権を信託財産として受入れ、その債権の管理・処分等を目的とする信託です。委託者である企業等は、信託銀行等を通じて信託受益権を投資家に譲渡することにより、資金の早期回収およびスキームによっては資産のオフバランス化を図ることができます。
遺言信託	遺言書についての相談、遺言書の作成、遺言書の保管および管理を行い、相続発生時には遺言の執行手続きなどを行います。
遺産整理業務	相続開始後、相続人全員からの委託を受け、相続人の代理人として相続手続きを行います。
証券代行業務	株式の発行会社に代わって、株式事務(株主名簿の管理、株式の名義書換、株主総会招集通知の発送、配当金計算、その他株式に関する事務)を行う業務です。
ラップ信託	投資一任契約に基づくラップ口座で運用しながら、万一のときに予め指定された相続人等にそのまま運用を引き継ぐことができる信託です。
国民年金基金勸奨業務	自営業者等(国民年金第1号被保険者)の方々の「老後の備え」を支援する商品として国民年金基金加入のご提案を行います。

●公益信託の受託状況

信託目的	基金名称
国際協力・国際交流促進	公益信託三木武夫国際育英基金
高等学校就学支援	公益信託久保峯由・ツユ子育英基金

◎信託業務サービスのご案内

- ◇公益信託は全店(除く出張所)で取扱っています。
- ◇遺言代用信託・暦年贈与型信託・事業承継信託・特定贈与信託・年金信託・土地信託・特定金銭信託(特定金外信託)・金銭債権の信託・遺言信託・遺産整理業務・証券代行業務・ラップ信託・国民年金基金勸奨業務は、当行が契約している信託銀行の代理店として下記の店舗で取扱っています。

業務名	取扱店
特定贈与信託・年金信託・土地信託・特定金銭信託(特定金外信託)	本店営業部、鳴門支店、小松島支店、阿南支店、鴨島支店、池田支店、高松支店、高知支店、大阪支店(9店舗)
遺言信託	本店営業部、鳴門支店、小松島支店、阿南支店、鴨島支店、池田支店、大阪支店(7店舗)
金銭債権の信託・証券代行業務	本店営業部、大阪支店(2店舗)
遺言代用信託・暦年贈与型信託・事業承継信託・国民年金基金勸奨業務	全店(店舗内店舗・相談プラザ出張所を除く86店舗)
ラップ信託	徳島コンサルティングプラザ出張所

- ◇遺言信託、遺産整理業務は、(株)山田エスクロー信託をご紹介するサービスを全店(除く出張所)で取扱っています。(2023年5月31日現在)

コーポレートデータ 手数料一覧

手数料には消費税等が含まれています。

●振込手数料

(1件につき)

サービス内容		お振込金額	当行宛	他行宛
窓口ご利用	電信	3万円未満	330円	660円
		3万円以上	550円	880円
ATMご利用	当行カード・通帳 振替振込	3万円未満	110円	380円
		3万円以上	330円	550円
	紙幣・硬貨 現金振込	3万円未満	220円	490円
		3万円以上	440円	660円
データ伝送		3万円未満	110円	380円
		3万円以上	330円	550円

●取束手数料

(1件につき)

サービス内容	電子交換所加盟行		電子交換所非加盟行
	当行本支店・他行宛	個別取立	個別取立
代金取立	440円	1,100円	1,100円
入金小切手等取立	220円	1,100円	1,100円

(注) 支払場所となっている店舗で直接口座に入金される小切手等につきましては無料となります。
(注) 旅館券等クーポンの取立は個別取立になります。

●預金・融資取引関係手数料

サービス内容		手数料
手形帳発行	1冊につき	2,200円
小切手帳発行	1冊につき	2,200円
CD・ATM時間外利用	当行カード	110円
	他行カード	220円
通帳・証書・CDカード再発行	1件につき	1,100円
融資条件変更	1件につき	11,000円
不動産担保取扱	—	55,000円
住宅ローン繰上返済	—	ご返済の条件に応じて 無料～44,000円
預貸金残高証明書発行	預金・貸出金それぞれ 1通につき	ご発行の形態に応じて 330～3,300円

(注) 預貸金残高証明書発行は、監査法人さまからのご依頼につきましては、1依頼書ごとに手数料をいただきます。

●保管関係手数料

サービス内容		手数料
夜間金庫		基本料金年間79,200円、専用カバン(6個以上1個につき)年間13,200円、専用入金帳発行料6,600円
貸金庫	一般	容量に応じて年間 11,000～26,400円
	全自動	容量に応じて年間 13,200～26,400円
	簡易	容量に応じて年間 11,000～17,600円
保護預り	封緘預り	年間3,300円
	開封預り	年間3,300円+券面額1.21/1,000

●インターネットバンキング手数料

サービス名	契約料	基本料金/月額
ai-mo(あわぎんインターネット・モバイルバンキング)	無料	無料

(注) 1.個人のお客さまのみに限定させていただきます。
2.ご利用されるサービスにより、別途振込手数料等が必要となります。

サービス名	契約料	基本料金/月額
あわぎん法人インターネットバンキング	ライト型	無料 550円
	ライトプラス型	無料 1,100円
	スタンダード型	無料 2,200円
	エクストラ型	無料 5,500円

(注) ご利用されるサービスにより、別途振込手数料等が必要となります。

●でんさい手数料

		手数料		備考
		ai-mo	窓口	
記録請求等手数料	発生記録	当行宛	220円 990円	債権者の決済口座が当行の場合
		他行宛	440円 1,210円	債権者の決済口座が他行の場合
	譲渡記録 分割譲渡記録	当行宛	220円 990円	譲受人の決済口座が当行の場合
		他行宛	440円 1,210円	譲受人の決済口座が他行の場合
決済手数料		220円	220円	

(注) 1.通常のお取引に係る手数料のみ掲載しております。
2.「ai-mo」とはあわぎんインターネットモバイルバンキングの愛称です。なお、でんさいは「あわぎん法人インターネットバンキング」のみご利用可能です。(2023年5月31日現在)

サービス名		契約料	基本料金/月額
あわぎん外為webサービス	外国送金受付サービス	無料	2,200円
	輸入信用状受付サービス	無料	2,200円

(注) 上記以外にも外国送金や輸入信用状発行・条件変更のお取引ごとに当行所定の手数料が必要となります。

●その他の手数料

サービス名	内容	手数料
店頭両替	両替枚数 1～50枚	無料
	両替枚数 51～100枚	220円
	両替枚数 101～500枚	330円
	両替枚数 501～1,000枚	550円
	両替枚数 1,001枚以上1,000枚ごと	550円加算
個人情報開示	お客さまご本人にかかる情報の開示	1,100円
	取引残高(科目、口座番号、残高)	1,100円
	取引明細(期間1年以内) (追加1年分ごとに)	1,650円
	その他の開示	2,200円

総店舗 [103 店舗]

店舗 [87 店舗]

徳島市内 [25 店舗]

本店営業部	〒770-0912 徳島市東新町一丁目29 ☎(088)623-3131	住 外 両 土 日 祝
法人営業センター 出張所	〒770-8601 徳島市西船場町二丁目24-1 ☎(088)623-3131	
徳島コンサルティング プラザ出張所	〒770-8601 徳島市西船場町二丁目24-1 ☎(088)603-8500	
徳島市役所	〒770-0847 徳島市幸町二丁目5 ☎(088)655-3553	住 外 両
県庁	〒770-0941 徳島市万代町一丁目1 ☎(088)623-3247	住 外 両
昭和町	〒770-0943 徳島市中昭和町二丁目36-4 ☎(088)654-6181	住 外 土 日 祝
津田	〒770-8004 徳島市津田西町一丁目4-11 ☎(088)663-1030	住 外 土 日 祝
二軒屋	〒770-0928 徳島市二軒屋町三丁目24-1 ☎(088)622-6158	住 外 土 日 祝
八万	〒770-8074 徳島市八万町下福万169-1 ☎(088)668-4088	住 土 日 祝
法花	〒770-8084 徳島市八万町法花谷296-1 ☎(088)669-2765	住 土 日 祝
福島	〒770-0863 徳島市安宅二丁目6-67 ☎(088)622-7168	住 外 土 日 祝
マリンピア	〒770-0874 徳島市南沖洲三丁目2-10 ☎(088)664-5588	住 土 日 祝
住吉	〒770-0861 徳島市住吉四丁目5-85 ☎(088)623-2011	住 土 日 祝
助任橋	〒770-0815 徳島市助任橋三丁目1-2 ☎(088)625-3141	住 土 日 祝
渭北	〒770-0802 徳島市吉野本町四丁目48-3 ☎(088)654-5544	住 土 日 祝
佐古東	〒770-0022 徳島市佐古二番町6-17 ☎(088)654-5161	住 土 日 祝
佐古	〒770-0027 徳島市佐古七番町4-26 ☎(088)622-3175	住 外
田宮	〒770-0004 徳島市南田宮四丁目1-40 ☎(088)631-1890	住 土 日 祝
蔵本	〒770-0042 徳島市蔵本町二丁目19 ☎(088)631-3191	住 外 両 土 日 祝
鮎喰	〒770-0046 徳島市鮎喰町二丁目95-2 ☎(088)632-5522	住 土 日 祝
国府	〒779-3122 徳島市国府町府中中字柿ノ原田723-10 ☎(088)642-1177	住 外 土 日 祝
川内	〒771-0141 徳島市川内町竹須賀155-1 ☎(088)665-1321	住 土 日 祝
徳島北	〒771-0131 徳島市川内町大松238-1 ☎(088)665-8686	住 外 土 日 祝
相談プラザ 出張所	〒770-0911 徳島市東船場町二丁目21-2 阿波銀住友生命ビル ☎(0120)106-023	住
イオンプラザ 出張所	〒770-0865 徳島市南末広町4-1(イオンモール徳島5階) ☎(088)602-7371	

鳴門市内 [5 店舗]

鳴門	〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字東浜663 ☎(088)686-3151	住 外 両 土 日 祝
鳴門東	〒772-0017 鳴門市撫養町立岩字元地304 ☎(088)685-6060	住 土 日 祝
黒崎	〒772-0001 鳴門市撫養町黒崎字松島106 ☎(088)685-1661	住 土 日 祝
瀬戸	〒771-0360 鳴門市瀬戸町明神字下本城158-2 ☎(088)688-0133	住 屋 土

板東	〒779-0237 鳴門市大麻町板東字北条34-4 ☎(088)689-1231	住 屋 土 日 祝
----	---	--------------

小松島市内 [2 店舗]

小松島	〒773-0003 小松島市松島町7-14 ☎(0885)32-2211	住 外 両 土 日 祝
赤石	〒773-0021 小松島市赤石町11-2 ☎(0885)38-2626	住 土 日 祝

阿南市内 [5 店舗]

阿南	〒774-0030 阿南市富岡町トノ町49-6 ☎(0884)22-1201	住 外 両 土 日 祝
羽ノ浦	〒779-1101 阿南市羽ノ浦町中庄市13-1 ☎(0884)44-3150	住 外 土 日 祝
橋	〒774-0023 阿南市橋町東中浜71 ☎(0884)27-0430	住 外 土 日 祝
新野	〒779-1510 阿南市新野町馬場73-1 ☎(0884)36-3221	住 屋 土
中島	〒779-1242 阿南市那賀川町赤池168-8 ☎(0884)42-1150	住 屋 土

県北部 [6 店舗]

松茂	〒771-0220 板野郡松茂町広島字東裏42-3 ☎(088)699-2911	住 外 両 土 日 祝
北島	〒771-0204 板野郡北島町鯛浜字かや123-1 ☎(088)698-2611	住 外
藍住	〒771-1211 板野郡藍住町徳命字元村143-1 ☎(088)692-2631	住 外 土 日 祝
板野	〒779-0105 板野郡板野町大寺字泉口14-2 ☎(088)672-1166	住 外 土 日 祝
上板	〒771-1301 板野郡上板町鍛冶屋原字妙楽寺1-2 ☎(088)694-3131	住 土 日 祝
ゆめプラザ 出張所	〒771-1202 板野郡藍住町奥野字東中須88-1(ゆめタウン徳島1階) ☎(088)692-8899	

県南部 [8 店舗]

勝浦	〒771-4307 勝浦郡勝浦町大字三浜字上川原42-12 ☎(0885)42-2551	住 屋 土 日 祝
鷲敷	〒771-5203 那賀郡那賀町和食郷字南川182-1 ☎(0884)62-2009	住 外 土
平谷	〒771-6321 那賀郡那賀町平谷字窪田15-1 ☎(0884)67-0211	住 屋
由岐	〒779-2103 海部郡美波町西の地字西地50-1 ☎(0884)78-1155	住 屋
日和佐	〒779-2305 海部郡美波町奥河内字本村155-1 ☎(0884)77-1155	住 外 土 日 祝
牟岐	〒775-0006 海部郡牟岐町大字中村字本村128-1 ☎(0884)72-1181	住 屋
海南	〒775-0203 海部郡海陽町大里字上中須140-4 ☎(0884)73-1300	住 外 土 日 祝
穴喰	〒775-0501 海部郡海陽町穴喰浦字松原57-1 ☎(0884)76-3131	住 屋 土

県西部 [17 店舗]

石井	〒779-3233 名西郡石井町石井字石井511-1 ☎(088)674-1122	住 外 土 日 祝
竜王	〒779-3224 名西郡石井町高川原字加茂野363 ☎(088)674-1101	住 土 日 祝
鴨島	〒776-0010 吉野川市鴨島町鴨島388-3 ☎(0883)24-2131	住 外 両
川島	〒779-3304 吉野川市川島町宮島690-2 ☎(0883)25-2814	住 屋 土 日 祝
山川	〒779-3403 吉野川市山川町前川202-8 ☎(0883)42-3131	住 外 土 日 祝

土成	〒771-1506 阿波市土成町土成字南原236-3 ☎(088)695-3777	住 屋 土 日 祝
市場	〒771-1604 阿波市市場町香美字郷社本224-3 ☎(0883)36-5121	住 外 土 日 祝
穴吹	〒777-0005 美馬市穴吹町穴吹字五反地34-1 ☎(0883)52-2113	住 屋 土 日 祝
脇町	〒779-3602 美馬市脇町大字猪尻字八幡神社下南121-1 ☎(0883)52-2111	住 外 両 土 日 祝
貞光	〒779-4101 美馬郡つるぎ町貞光字町51-1 ☎(0883)62-3161	住 外
美馬	〒771-2106 美馬市美馬町字天神100-7 ☎(0883)63-5221	住 屋 土
半田	〒779-4403 美馬郡つるぎ町半田字木ノ内140-1 ☎(0883)64-2017	住 屋
三野	〒771-2304 三好市三野町芝生406 ☎(0883)77-2355	住 屋 土
三好	〒771-2501 三好郡東みよし町屋間3230 ☎(0883)79-3666	住 屋 土
加茂	〒779-4701 三好郡東みよし町加茂1798-1 ☎(0883)82-2600	住 外 土 日 祝
池田	〒778-0002 三好市池田町マチ2512-13 ☎(0883)72-2100	住 外 両 土 日 祝
山城	〒779-5304 三好市山城町大川持586-6 ☎(0883)86-1313	住 屋

県外 [19店舗]

高松	〒760-0017 香川県高松市番町一丁目1-5 ☎(087)826-1170	住 外 屋
高知	〒780-0870 高知県高知市本町四丁目2-40 ☎(088)825-1414	住 外 屋
松山	〒790-0003 愛媛県松山市三番町四丁目8-3 ☎(089)931-8241	住 外 屋
大阪	〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町三丁目1-7 ☎(06)6251-4154	外 屋
東京	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町一丁目13-7 ☎(03)3272-6891	外 屋
神戸	〒651-0088 兵庫県神戸市中央区小野柄通六丁目1-15 ☎(078)251-6511	外 屋
西大阪	〒550-0022 大阪府大阪市西区本田一丁目7-7 ☎(06)6582-8141	外 屋
堺	〒590-0833 大阪府堺市堺区出島海岸通二丁目10-11 ☎(072)245-0405	住 外 屋
岡山	〒700-0904 岡山県岡山市北区柳町一丁目1-1 ☎(086)233-7511	外 屋
尼崎	〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通二丁目12-10 ☎(06)6481-3111	外 屋
蒲田	〒144-0052 東京都大田区蒲田五丁目15-8 ☎(03)3730-8021	外 屋
北大阪	〒564-0063 大阪府吹田市江坂町一丁目23-26 ☎(06)6386-6191	外 屋
江戸川	〒132-0024 東京都江戸川区一之江八丁目10-4 ☎(03)5662-4060	外 屋
東大阪	〒577-0012 大阪府東大阪市長田東四丁目1-18 ☎(06)6747-8585	外 屋
南大阪	〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋一丁目5-1 ☎(06)6643-1188	外 屋
姫路	〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町140 ☎(079)284-6001	外 屋
東京城北	〒114-0002 東京都北区王子二丁目30-3 ☎(03)3927-1051	外 屋
横浜	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目4-1 ☎(045)473-1100	外 屋
代々木	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目23-5 ☎(03)5315-0664	外 屋

店舗内店舗 [16店舗]

徳島駅前	〒770-0912 徳島市東新町一丁目29 ☎(088)622-3366 ※徳島駅前支店は本店営業部内で営業しています	住
新聞放送会館出張所	〒770-0912 徳島市東新町一丁目29 ☎(088)652-1118 ※新聞放送会館出張所は本店営業部内で営業しています	
両国橋	〒770-0912 徳島市東新町一丁目29 ☎(088)622-5141 ※両国橋支店は本店営業部内で営業しています	住
かちどき橋	〒770-0912 徳島市東新町一丁目29 ☎(088)653-2411 ※かちどき橋支店は本店営業部内で営業しています	住
間屋町	〒770-0928 徳島市二軒屋町三丁目24-1 ☎(088)622-5351 ※間屋町支店は二軒屋支店内で営業しています	住
未広	〒770-0863 徳島市安宅二丁目6-67 ☎(088)623-3156 ※未広支店は福島支店内で営業しています	住
中央市場	〒770-0874 徳島市南沖洲三丁目2-10 ☎(088)628-2750 ※中央市場支店はマリソピア支店内で営業しています	住
矢三	〒770-0004 徳島市南田宮四丁目1-40 ☎(088)631-6121 ※矢三支店は田宮支店内で営業しています	住
大津	〒772-0003 鳴門市撫養町南浜字東浜663 ☎(088)685-3838 ※大津支店は鳴門支店内で営業しています	住
中田	〒773-0003 小松島市松島町7-14 ☎(0885)33-0808 ※中田支店は小松島支店内で営業しています	住
見能林	〒774-0030 阿南市富岡町トノ町49-6 ☎(0884)23-2888 ※見能林支店は阿南支店内で営業しています	住
古庄	〒779-1101 阿南市羽ノ浦町中庄市13-1 ☎(0884)44-3172 ※古庄支店は羽ノ浦支店内で営業しています	住
勝瑞	〒771-0204 板野郡北島町鯛浜字かや123-1 ☎(088)698-1141 ※勝瑞支店は北島支店内で営業しています	住
藍住西	〒771-1211 板野郡藍住町徳命字元村143-1 ☎(088)692-6511 ※藍住西支店は藍住支店内で営業しています	住
阿波町	〒771-1604 阿波市市場町香美字郷社本224-3 ☎(0883)36-5121 ※阿波町支店は市場支店内で営業しています	住
丸亀	〒760-0017 香川県高松市番町一丁目1-5 ☎(087)826-2500 ※丸亀支店は高松支店内で営業しています	住

その他特殊店舗

提携 イーティーム 支店	〒770-8601 徳島市西船場町二丁目25-2(徳島集中センター内) ☎(088)623-3131	
--------------------	---	--

(2023年5月31日現在)

※凡例 住…住宅金融支援機構業務取扱店
外…外国送金取扱店
両…外貨両替店
屋…窓口休業時間11:30~12:30
土…土曜日CD・ATM稼働店
日…日曜日CD・ATM稼働店
祝…祝日CD・ATM稼働店
(注)両は、外貨両替を直接取扱っている店舗です。

注1) 佐古東支店は、2023年6月に、店舗内店舗として佐古支店内へ移転しています。

注2) 半田支店は、2023年7月に、店舗内店舗として、貞光支店内へ移転しています。

店舗外 CD・ATM 設置場所 [115カ所]

徳島市内 [48カ所]

春日橋	(A)(+)(日)(夜)
徳島駅前	(A)(+)(日)(夜)
中央病院	(A)(+)(日)(夜)
徳島大学病院	(A)(+)
徳島西(佐古支店横)	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ中央店	(A)(+)(日)(夜)
川島病院	(A)
徳島ターミナルビル	(A)(+)(日)(夜)
アミコ	(A)(+)(日)(夜)
ファミリーマート徳島しらすぎ台店	(A)(+)(日)(夜)
両国橋	(A)(+)(日)(夜)
徳島県警本部	(A)
徳島市民病院	(A)(+)(日)(夜)
昭和町トヨペット前	(A)(+)
キリン堂昭和町店	(A)(+)(日)(夜)
デイリーマート津田	(A)(+)(日)(夜)
新浜	(A)(+)
大原	(A)(+)(日)(夜)
学生会館(徳島大学)	
四国大学	(A)
古川	(A)(+)(日)(夜)
応神	(A)(+)(日)(夜)
丈六団地	(A)(+)(日)(夜)
マルヨシセンター八万	(A)(+)(日)(夜)
マルヨシセンター城南	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ山城橋	(A)(+)(日)(夜)
ローソン下福万店	(A)(+)(日)(夜)
とくしま生協住吉	(A)(+)(日)(夜)
沖浜	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ鮎喰	(A)(+)(日)(夜)
タクト	(A)(+)(日)(夜)
タクト第2	(A)(+)(日)(夜)
大塚化学前	(A)(+)
加賀須野	(A)(+)(日)(夜)
福島橋	(A)(+)(日)(夜)
イオンモール徳島	(A)(+)(日)(夜)
マルナカ徳島店	(A)(+)(日)(夜)
マルナカ徳島店第2	(A)(+)(日)(夜)
田宮	(A)(+)(日)(夜)
南田宮	(A)(+)(日)(夜)
大松	(A)(+)(日)(夜)
田岡病院	(A)(+)(日)(夜)
矢三	(A)(+)(日)(夜)
セブン国府	(A)(+)(日)(夜)
新聞放送会館ATM	(A)
中央市場	(A)(+)
問屋町	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ沖洲市場店	(A)(+)(日)(夜)

鳴門市内 [9カ所]

キョーエイ鳴門駅前	(A)(+)(日)(夜)
鳴門病院	(A)
鳴門教育大学	(A)
マルナカマート大津	(A)(+)(日)(夜)
ハローズ鳴門店	(A)(+)(日)(夜)
黒崎北	(A)(+)(日)(夜)
パワーシティ鳴門	(A)(+)(日)(夜)
大塚国際美術館	(A)(+)(日)(夜)
日亜化学工業鳴門	(+)(日)(夜)

小松島市内 [10カ所]

徳島赤十字病院	(A)(+)(日)(夜)
小松島市役所	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ小松島店	(A)(+)(日)(夜)
小松島ニュータウン	(A)(+)
小松島日開野	(A)(+)(日)(夜)
平惣羽ノ浦	(A)(+)(日)(夜)
マルナカ南小松島店	(A)(+)(日)(夜)
ルピア	(A)(+)(日)(夜)
キリン堂小松島店	(A)(+)(日)(夜)
ハローズ江田店	(A)(+)(日)(夜)

阿南市内 [11カ所]

日亜化学工業	(A)(+)(日)(夜)
日亜化学工業辰巳	(+)(日)(夜)
キョーエイ羽ノ浦	(A)(+)(日)(夜)
宝田	(A)(+)(日)(夜)
アピカ	(A)(+)(日)(夜)
マネキ学原	(A)(+)(日)(夜)
阿南市役所	(A)
那賀川支所	(A)(+)
桑野	(A)(+)(日)(夜)
フジグラン阿南	(A)(+)(日)(夜)
見能林	(A)(+)(日)(夜)

県北部 [15カ所]

徳島空港	(+)(日)(夜)
空港西	(A)(+)(日)(夜)
松茂工業団地入口	(A)(+)(日)(夜)
藍住ママの店	(A)(+)(日)(夜)
とくしま生協北島	(A)(+)(日)(夜)
フジグラン北島	(A)(+)(日)(夜)
北島支店前	(A)(+)(日)(夜)
藍住インター北	(A)(+)(日)(夜)
セブン藍住	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ笠木	(A)(+)(日)(夜)
勝瑞駅北	(A)(+)(日)(夜)
上板東	(A)(+)(日)(夜)
道の駅いたの	(A)(+)(日)(夜)
ゆめタウン徳島	(A)(+)(日)(夜)
藍住町役場	(A)(+)(日)(夜)

県南部 [1カ所]

ポルト	(A)(+)(日)(夜)
-----	--------------

県西部 [20カ所]

高川原	(A)(+)(日)(夜)
フジグラン石井	(A)(+)(日)(夜)
キョーエイ石井	(A)(+)(日)(夜)
アクアシティ	(A)(+)(日)(夜)
上下島	(A)(+)(日)(夜)
吉野川市役所	(A)
セレブ	(A)(+)(日)(夜)
上浦	(A)(+)(日)(夜)
パワーシティ鴨島	(A)(+)(日)(夜)
マルナカ吉野	(A)(+)(日)(夜)
阿波町	(A)(+)
アワーズ	(A)(+)(日)(夜)
脇町東	(A)(+)(日)(夜)
フレスポ阿波池田	(A)(+)(日)(夜)
三好病院	(A)
貞光ゆうゆう館	(A)(+)(日)(夜)
半田病院	(A)
神山町役場	(+)
阿波市役所	(A)
美馬市地域交流センター	(A)(+)(日)(夜)

企業内 [1カ所]

大塚製薬工場	(A)(+)(日)(夜)
--------	--------------

※凡例 (A)・・・ATM

●当行キャッシュサービスコーナーのご利用時間とお引出し手数料

区分	ご利用時間	お引出し手数料	
		当行キャッシュカード	他行キャッシュカード
平日	8:00～8:45	110円	220円
	8:45～18:00	無料	110円
	18:00～21:00	110円	220円
土・日・祝日	8:00～21:00	110円	220円

(注)1.ご利用時間は、当行キャッシュサービスコーナーの最長営業時間です。店舗により、ご利用になれる時間が異なっております。
2.お引出し手数料には、消費税等相当額が含まれています。

●コンビニATMの設置台数

コンビニATM	全国	徳島県内	設置台数
ローソン銀行共同ATM	13,527台	131台	
イーネット共同ATM	12,371台	65台	
セブン銀行共同ATM	26,936台	89台	
イオン銀行共同ATM	6,522台	56台	

※設置場所の詳細は当行ホームページに掲載しております。

●コンビニATMのご利用時間

コンビニATM	ご利用時間
ローソン銀行共同ATM イーネット共同ATM セブン銀行共同ATM	24時間 ※日曜日21:00～月曜日7:00および日付変更(24:00)の前数分間はシステムメンテナンスのため休止します。
イオン銀行ATM	全日 8:00～21:00

●コンビニATMのご利用手数料

ご利用時間	手数料
平日 8:45～18:00	110円
上記以外の時間帯	220円

(注)1.ご利用手数料はお引出し、お預入れ、お振込みの際に必要です。
なお、お振込みについては、別途お振込手数料が必要です。
2.ご利用手数料には、消費税等相当額が含まれています。
3.セブン銀行共同ATMはお振込みのご利用はできません。(2023年5月31日現在)

■あわぎんインターネット・モバイルバンキング

アイモ **ai-mo** あわぎんインターネット・モバイルバンキング

休日や夜間でも、スマートフォンやパソコンから残高照会やお振込み、お振替などのサービスがご利用いただけます。

24時間365日利用可能

サービス利用料無料

■振込手数料がお得

店舗窓口でのお振込みより振込手数料がお得です。阿波銀行宛のお振込みなら手数料無料!

当行宛 振込	店舗窓口 ご利用	ATMご利用 カード・通帳振替の場合	ai-mo ご利用時
3万円未満	330円	110円	無料
3万円以上	550円	330円	無料



■セキュリティ強化

可変認証に加え、合言葉による追加認証・ワンタイムパスワードを導入し、セキュリティ強化を図っています。また、当行ホームページ上で、ウイルス対策ソフトの無償配布を行っています。

あわぎんホームページ

<https://www.awabank.co.jp/>

■外貨預金・口座開設

外貨預金(普通、積立、定期)口座開設から、入出金振替、公表為替相場、金利照会などがご利用いただけます。取扱通貨は米ドル、ユーロ、豪ドルの3種類です。

お問い合わせは

フリーダイヤル **0120-39-6263**

受付時間/24時間365日

■休日相談への対応状況

休日にもご相談いただけます。

本店営業部

各種保険・住宅ローンを中心に、お客さまのライフプラン全般に関するご相談からお申込みまでの窓口として、土・日・祝日も営業しています。

平日 TEL **088-623-3131** 休日 TEL **088-623-2330**

営業時間 土・日・祝日を含む毎日/午前9時～午後5時 ※ただし、年末年始(12月31日～1月3日)などの所定の休業日を除きます。



あわぎんゆめプラザ
(ゆめプラザ出張所)

TEL **088-692-8899**

営業時間 土・日・祝日を含む毎日
午前10時～午後6時

※ただし、「ゆめタウン徳島」の休業日、年末年始(12月31日～1月3日)などの所定の休業日を除きます。



あわぎんイオンプラザ
(イオンプラザ出張所)

TEL **088-602-7371**

営業時間 平日/午前11時～午後7時
土・日・祝日/午前10時～午後6時

※ただし「イオンモール徳島」の休業日、年末年始(12月31日～1月3日)などの所定の休業日を除きます。



サービス内容 ●生命保険・医療保険・がん保険・学資保険の相談および受付 ●住宅ローンを中心とした個人ローンの相談および受付 ●資産運用・年金受給に関する相談および受付 等

あわぎんローンプラザ

(あわぎん相談プラザ) 徳島市東船場町二丁目21-2 阿波銀住友生命ビル 1階

フリーダイヤル **0120-106-023**

営業時間 月～金曜日/午前9時～午後5時
土・日・祝日/午前10時～午後5時

ローンプラザ小松島(小松島支店内)・
ローンプラザ北島(北島支店内)

(営業時間 月～金曜日/午前9時～午後3時 日曜日/午前10時～午後5時)
※ただし、年末年始(12月31日～1月3日)、GW(5月3日～5日)および阿波おどり期間中の土、日曜日などの所定の休業日を除きます。

サービス内容 ●住宅ローンを中心とした個人ローンの相談および受付

あわぎんダイレクト
バンキングセンター

フリーダイヤル **0120-810-172**

営業時間 月～金曜日/午前10時～午後6時
※ただし、年末年始(12月31日～1月3日)、GWなどの所定の休業日を除きます。

サービス内容 ●個人向けローンに関する相談



※各プラザは、通常の入出金業務・納税・振込みなどのお取扱いはいたしません。

電話にてお問い合わせいただけます。

あわぎんお客さまサポートセンター

お客さまと阿波銀行を声で結ぶ双方向のアクセスチャネルとして、新サービス・お役に立つ情報のご案内を行っています。また、各種商品・サービスについてのご照会・ご相談窓口として営業しています。

フリーダイヤル **0120-39-8689**

営業時間 月～金/午前9時～午後5時(祝日は除く)
※ただし、年末年始(12月31日～1月3日)、GW(5月3日～5日)などの所定の休業日を除きます。

■事業の概況

(1) 損益の状況

- 当連結会計年度の損益につきましては、経常収益は、株式等売却益や金融派生商品収益が増収となったことなどから、前連結会計年度比201億43百万円増収の880億81百万円となりました。
一方、経常費用は、貸倒引当金繰入額が減少となったものの、外国債券を中心に国債等債券売却損が増加したことなどから、前連結会計年度比208億50百万円増加の726億53百万円となりました。
この結果、経常利益は、前連結会計年度比7億6百万円減益の154億28百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度比9億4百万円減益の102億7百万円となりました。
- 当行は、株主への利益還元を重要な経営課題として認識しており、将来の収益基盤の強化に向けた内部留保の充実に努めるとともに、株主各位に対し安定的かつ積極的な利益還元を継続して行うことを基本方針としております。この方針のもと、配当金につきましては、年間25円（中間・期末各12円50銭）を安定配当として堅持しつつ、これに各期の業績に応じた加算をしてお支払することとしておりましたが、2023年5月に株主還元方針を変更いたしました。あらたな株主還元方針では、2023年度より配当と自己株式取得額を合わせた株主還元率を、親会社株主に帰属する当期純利益の40%以上とすることを目標としております。

当行の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は取締役会であります。

当期の期末配当につきましては、業績等を総合的に勘案し、1株につき27円50銭とさせていただきます。これにより、当期の年間配当は中間配当22円50銭と合わせて1株につき50円となりました。

(2) 資産・負債の状況

- 譲渡性預金を含めた預金につきましては、法人預金・個人預金・公金預金がいずれも順調に増加したことから、前連結会計年度末比800億円増加し、当連結会計年度末残高は3兆3,806億円となりました。
- 貸出金につきましては、地域密着型金融を推進する中、さまざまな資金ニーズに積極的にお応えした結果、前連結会計年度末比552億円増加し、当連結会計年度末残高は2兆1,723億円となりました。
- 有価証券につきましては、外国証券の減少を主因として、当連結会計年度末の有価証券残高は前連結会計年度末比964億円減少し、9,353億円となりました。

■主要な経営指標等の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	単位
連結経常収益	70,323	67,374	65,587	67,938	88,081	百万円
うち連結信託報酬	1	3	2	2	2	百万円
連結経常利益	18,433	15,729	12,663	16,134	15,428	百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	10,958	11,160	8,498	11,112	10,207	百万円
連結包括利益	5,462	△15,226	42,971	△2,222	△6,038	百万円
連結純資産額	272,331	252,362	292,894	288,404	278,763	百万円
連結総資産額	3,330,769	3,376,210	3,866,075	3,977,726	3,850,329	百万円
1株当たり純資産額	6,318.74	5,981.43	6,984.60	6,926.75	6,838.08	円
1株当たり当期純利益	252.78	261.80	202.64	265.38	248.21	円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—	—	—	—	円
自己資本比率	8.14	7.47	7.57	7.25	7.23	%
連結自己資本比率（国内基準）	10.80	10.57	11.22	11.31	11.21	%
連結自己資本利益率	4.06	4.26	3.11	3.82	3.59	%
連結株価収益率	11.13	8.71	12.29	8.18	7.85	倍
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,846	25,053	301,556	96,672	△321,755	百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,020	12,343	46,831	△37,030	93,250	百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15,136	△4,742	△2,438	△2,267	△3,601	百万円
現金及び現金同等物の期末残高	252,620	285,275	631,227	688,605	456,494	百万円
従業員数	1,344	1,357	1,334	1,327	1,338	人
[外、平均臨時従業員数]	[536]	[517]	[487]	[572]	[561]	
信託財産額	387	378	370	359	349	百万円

- (注) 1. 2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益につきましては、2019年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。
2. 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式がないため記載しておりません。
3. 自己資本比率は、(期末純資産の部合計－期末非支配株主持分)を期末資産の部の合計で除して算出してしております。
4. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出してしております。当行は、国内基準を採用しております。
5. 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係るものを記載しております。なお、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社であります。

■連結財務諸表

連結貸借対照表

(百万円)

資産の部	2022年3月期	2023年3月期
科目		
現金預け金	690,236	482,868
コールローン及び買入手形	18,358	140,894
買入金銭債権	1,398	817
有価証券※1,2,3,5,11	1,031,863	935,370
貸出金※3,4,6	2,117,033	2,172,312
外国為替※3,4	9,240	8,879
リース債権及びリース投資資産※3	28,935	30,057
その他資産※3,5,7	48,700	46,019
有形固定資産※9,10	38,147	38,438
建物	13,730	13,779
土地※8	21,059	20,657
リース資産	3	—
建設仮勘定	1,125	1,940
その他の有形固定資産	2,229	2,061
無形固定資産	4,528	4,515
ソフトウェア	4,415	4,403
その他の無形固定資産	112	112
繰延税金資産	214	212
支払承諾見返※3	8,482	8,924
貸倒引当金	△19,414	△18,981
資産の部合計	3,977,726	3,850,329

(百万円)

負債及び純資産の部	2022年3月期	2023年3月期
科目		
預金※5	3,167,043	3,250,619
譲渡性預金	133,504	130,006
コールマネー及び売渡手形	12,850	—
債券貸借取引受入担保金	40,945	—
借入金※5	266,375	128,110
外国為替	18	2
その他負債	40,154	40,016
賞与引当金	22	22
役員賞与引当金	54	50
役員退職慰労引当金	14	15
株式報酬引当金	257	290
睡眠預金払戻損失引当金	271	193
偶発損失引当金	1,205	1,314
繰延税金負債	15,427	9,454
再評価に係る繰延税金負債※8	2,691	2,545
支払承諾	8,482	8,924
負債の部合計	3,689,322	3,571,566
資本金	23,452	23,452
資本剰余金	20,106	20,106
利益剰余金	185,469	189,153
自己株式	△4,100	△846
株主資本合計	224,927	231,866
その他有価証券評価差額金	58,375	42,401
繰延ヘッジ損益	△24	△297
土地再評価差額金※8	5,126	4,792
その他の包括利益累計額合計	63,476	46,896
純資産の部合計	288,404	278,763
負債及び純資産の部合計	3,977,726	3,850,329

連結損益計算書

(百万円)

科目	2022年3月期	2023年3月期
経常収益※1	67,938	88,081
資金運用収益	38,801	44,079
貸出金利息	23,782	24,786
有価証券利息配当金	14,205	15,279
コールローン利息及び買入手形利息	108	3,478
預け金利息	698	525
その他の受入利息	6	8
信託報酬	2	2
役員取引等収益	9,570	9,461
その他業務収益	16,081	18,843
その他経常収益	3,481	15,694
償却債権取立益	616	309
その他の経常収益※2	2,864	15,385
経常費用	51,803	72,653
資金調達費用	1,626	7,598
預金利息	435	822
譲渡性預金利息	14	12
コールマネー利息及び売渡手形利息	30	30
債券貸借取引支払利息	74	327
借入金利息	28	34
その他の支払利息	1,042	6,369
役員取引等費用	1,265	1,288
その他業務費用	14,815	32,857
営業経費※3	29,783	29,403
その他経常費用	4,313	1,506
貸倒引当金繰入額	3,352	956
その他の経常費用※4	960	549
経常利益	16,134	15,428
特別利益	45	0
固定資産処分益	0	0
退職給付制度終了益	44	—
特別損失	230	785
固定資産処分損	89	83
減損損失※5	140	701
税金等調整前当期純利益	15,950	14,642
法人税、住民税及び事業税	5,080	3,527
法人税等調整額	△242	907
法人税等合計	4,838	4,435
当期純利益	11,112	10,207
親会社株主に帰属する当期純利益	11,112	10,207

連結包括利益計算書

(百万円)

科目	2022年3月期	2023年3月期
当期純利益	11,112	10,207
その他の包括利益※1	△13,334	△16,245
その他有価証券評価差額金	△14,819	△15,973
繰延ヘッジ損益	1,503	△272
退職給付に係る調整額	△18	—
包括利益	△2,222	△6,038
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△2,222	△6,038

連結株主資本等変動計算書

(百万円)

	2022年3月期				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,452	20,106	176,045	△3,529	216,075
当期変動額					
剰余金の配当			△1,696		△1,696
親会社株主に帰属する 当期純利益			11,112		11,112
自己株式の取得				△960	△960
自己株式の処分			△0	389	389
自己株式の消却					—
土地再評価差額金の取崩			8		8
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	9,424	△571	8,852
当期末残高	23,452	20,106	185,469	△4,100	224,927

(百万円)

	2022年3月期					
	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	73,194	△1,528	5,134	18	76,819	292,894
当期変動額						
剰余金の配当						△1,696
親会社株主に帰属する 当期純利益						11,112
自己株式の取得						△960
自己株式の処分						389
自己株式の消却						—
土地再評価差額金の取崩						8
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△14,819	1,503	△8	△18	△13,343	△13,343
当期変動額合計	△14,819	1,503	△8	△18	△13,343	△4,490
当期末残高	58,375	△24	5,126	—	63,476	288,404

(百万円)

	2023年3月期				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,452	20,106	185,469	△4,100	224,927
当期変動額					
剰余金の配当			△1,876		△1,876
親会社株主に帰属する 当期純利益			10,207		10,207
自己株式の取得				△2,067	△2,067
自己株式の処分			△0	342	342
自己株式の消却			△4,980	4,980	—
土地再評価差額金の取崩			333		333
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	3,684	3,254	6,938
当期末残高	23,452	20,106	189,153	△846	231,866

(百万円)

	2023年3月期					
	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	58,375	△24	5,126	—	63,476	288,404
当期変動額						
剰余金の配当						△1,876
親会社株主に帰属する 当期純利益						10,207
自己株式の取得						△2,067
自己株式の処分						342
自己株式の消却						—
土地再評価差額金の取崩						333
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△15,973	△272	△333	—	△16,579	△16,579
当期変動額合計	△15,973	△272	△333	—	△16,579	△9,640
当期末残高	42,401	△297	4,792	—	46,896	278,763

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

区分	2022年3月期	2023年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	15,950	14,642
減価償却費	3,120	3,062
減損損失	140	701
貸倒引当金の増減(△)	1,076	△432
偶発損失引当金の増減(△)	102	108
賞与引当金の増減額(△は減少)	△0	0
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	10	△3
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	6,158	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△119	—
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5	0
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	61	32
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	△72	△78
資金運用収益	△38,801	△44,079
資金調達費用	1,626	7,598
有価証券関係損益(△)	△699	3,524
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△0	△0
為替差損益(△は益)	△20,233	△25,320
固定資産処分損益(△は益)	88	83
商品有価証券の純増(△)減	775	—
貸出金の純増(△)減	△30,118	△55,279
預金の純増減(△)	77,062	83,575
譲渡性預金の純増減(△)	4,662	△3,497
借入金(劣後特約借入金を除く)の純増減(△)	29,385	△138,265
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△84	△24,743
コールローン等の純増(△)減	1,367	△121,955
コールマネー等の純増減(△)	1,779	△12,850
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	△1,119	△40,945
外国為替(資産)の純増(△)減	644	△4,722
外国為替(負債)の純増減(△)	7	△16
資金運用による収入	39,321	43,107
資金調達による支出	△1,629	△7,553
その他	9,967	7,496
小計	100,438	△315,808
法人税等の支払額	△3,765	△5,947
営業活動によるキャッシュ・フロー	96,672	△321,755
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△213,004	△318,540
有価証券の売却による収入	75,087	294,509
有価証券の償還による収入	105,095	121,322
金銭の信託の増加による支出	△1,000	△1,004
金銭の信託の減少による収入	1,000	1,004
有形固定資産の取得による支出	△3,039	△2,435
有形固定資産の除却による支出	△87	△77
有形固定資産の売却による収入	92	29
無形固定資産の取得による支出	△1,173	△1,558
投資活動によるキャッシュ・フロー	△37,030	93,250
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,696	△1,876
自己株式の取得による支出	△960	△2,067
自己株式の売却による収入	389	342
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,267	△3,601
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	57,378	△232,110
現金及び現金同等物の期首残高	631,227	688,605
現金及び現金同等物の期末残高*1	688,605	456,494

注記事項(2023年3月期)

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社 6社
 会社名
 阿波銀保証株式会社
 阿波銀カード株式会社
 阿波銀コンサルティング株式会社
 阿波銀コネクスト株式会社
 阿波銀リース株式会社
 あわぎん成長企業投資事業有限責任組合

- (2) 非連結子会社 1社
 会社名
 あわぎん6次産業化投資事業有限責任組合
 非連結子会社は、その資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、連結の範囲から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の非連結子会社 0社
 (2) 持分法適用の関連会社 0社
 (3) 持分法非適用の非連結子会社 1社
 会社名
 あわぎん6次産業化投資事業有限責任組合

- (4) 持分法非適用の関連会社 3社
 会社名

四国アライアンスキャピタル株式会社
 Shikokuブランド株式会社
 あわぎん地方創生投資事業有限責任組合
 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)、利益剰余金(持分に見合う額)及びその他の包括利益累計額(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に重要な影響を与えないため、持分法の対象から除いております。

なお、あわぎん地方創生投資事業有限責任組合は、2022年9月30日に存続期間が満了し、2023年5月31日に清算終了いたしました。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は次のとおりであります。
 3月末日 6社

4. 会計方針に関する事項

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の非連結子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法(売却原価は移動平均法により算定)、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

- (2) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
 当行のデリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

- (3) 固定資産の減価償却の方法
 ①有形固定資産(リース資産を除く)
 有形固定資産は、定額法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 19年~50年
 その他 4年~8年
 ②無形固定資産
 無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

- ③リース資産
 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

- (4) 貸倒引当金の計上基準
 当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という。)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額(以下、「非保全額」という。)に対する予想損失額を計上しております。予想損失額は、3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づく予想損失率により算定しており、予想損失率には、当行が必要と認める下限値を設定しております。

「資本的劣後ローン(早期経営改善特例型)」や「十分な資本的性質が認められる借入金」については、「資本性適格貸出金に対する貸倒引当高の算定及び銀行等金融機関が保有する貸出債権を資本性適格貸出金に転換した場合の会計処理に関する監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第32号2020年9月9日)に基づき、「劣後性を有する資本性適格貸出金の回収可能見込額をゼロとみなして貸倒引当高を算定する方法」により算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先以外の債権のうち、「宿泊業」、「飲食業」など新型コロナウイルス感染症の影響が大きい業種の一定の条件に該当する債務者に係る債権については、次のとおり予想損失額を算定しております。

①条件変更を行っていない債務者については、債権額に、条件変更を行った際に発生が見込まれる信用リスクの増加を勘案した予想損失率を乗じた額を計上

②条件変更を行っている債務者については、債務者区分に応じた予想損失額に加え、非保全額に一定の毀損率を乗じた額を計上

上記以外の債権については、今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づく予想損失率により算定しております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

連結子会社の貸倒引当金は、資産の自己査定結果に基づき、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、当行は、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は16,549百万円であります。

(5) 賞与引当金の計上基準

連結子会社の賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(6) 役員賞与引当金の計上基準

当行の役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7) 役員退職慰労引当金の計上基準

連結子会社の役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(8) 株式報酬引当金の計上基準

当行の株式報酬引当金は、役員への当行株式の交付等に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に対する株式給付債務の見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

(9) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

当行の睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認める額を計上しております。

(10) 偶発損失引当金の計上基準

当行の偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

(11) 退職給付に係る会計処理の方法

当行及び連結子会社はリスク分担型企業年金制度及び確定拠出年金制度を採用しており、要拠出額をもって費用処理しております。

(12) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

(13) 重要な収益及び費用の計上基準

①ファイナンス・リース取引に係る収益及び費用の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

②顧客との取引に係る収益の計上方法

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日)を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

当行及び連結子会社は、次の5つのステップを適用し顧客との取引に関する収益を認識しています。

ステップ1:顧客との契約を識別する。

ステップ2:契約における履行義務を識別する。

ステップ3:取引価格を算定する。

ステップ4:契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5:履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

当行及び連結子会社の顧客との取引に関する収益は、主として約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で認識される取引サービスに係るものであり、為替業務等に係る手数料、資金取引等に係る手数料、証券業務等に係る手数料、代理業務等に係る手数料、その他銀行サービスの提供等に係る手数料等が含まれます。

(14) 重要なヘッジ会計の方法

①金利リスク・ヘッジ

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号2022年3月17日。以下、「業種別委員会実務指針第24号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間毎にグループのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。なお、ヘッジ手段とヘッジ対象の条件がほぼ同一のヘッジについては、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動をほぼ相殺しているため、有効性の評価を省略しております。

また、これらのヘッジ関係に、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号2022年3月17日)を適用しております。

②為替変動リスク・ヘッジ

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号2020年10月8日。以下、「業種別委員会実務指針第25号」という。)に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

(15) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、発生年度に全額償却しております。

(16) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

(重要な会計上の見張り)

会計上の見張りにより当連結会計年度に係る連結財務諸表にその額を計上した項目であって、翌連結会計年度に係る連結財務諸表に重要な影響を与える可能性があるものは、次のとおりです。

1. 貸倒引当金

(1) 当連結会計年度に係る連結財務諸表に計上した額

貸倒引当金 18,981百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見掛りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

貸倒引当金の算出方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」[4. (4) 貸倒引当金の計上基準]に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は、「債務者の将来の業績見通し」であります。「債務者の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。また、新型コロナウイルス感染症の経済への影響については、2023年度は、全体としては回復傾向にあるものの、「宿泊業」、「飲食業」など特定の業種においては依然として影響が大きく、当該業種の債務者については、他の業種と比べて信用リスクが高まると仮定し、貸倒引当金を算定しております。これによる追加引当額は605百万円であります。

③翌連結会計年度に係る連結財務諸表に与える影響

個別貸出先の業績変化及び新型コロナウイルス感染症の経済への影響が、当連結会計年度末の見積りに用いた仮定と大きく異なる場合は、翌連結会計年度に係る連結財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

(未適用の会計基準等)

・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)

・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号2022年10月28日)

・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日)

(1) 概要

その他の包括利益に対して課税される場合の法人税等の計上区分及びグループ法人税制が適用される場合の子会社株式等の売却に係る税効果の取扱いを定めるものであります。

(2) 適用予定日

2025年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響額は、評価中であります。

(追加情報)

(役員報酬BIP信託)

当行は、中長期的な業績の向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的とし、取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役である者を除く。)及び執行役員(取締役と併せて以下、「取締役等」という。)を対象に、「役員報酬BIP信託」による業績連動型株式報酬制度を導入しております。

1. 取引の概要

当行が定める株式交付規程に基づき、取締役等に対し、業績及び役位に応じてポイントを付与し、そのポイントに応じた当行株式及びその換価処分金相当額の金銭を退任時に信託を通じて交付及び給付します。

2. 信託が保有する当行の株式に関する事項

(1) 信託が保有する当行の株式は、株主資本において自己株式として計上しております。

(2) 信託における帳簿価額は当連結会計年度末648百万円であります。

(3) 信託が保有する当行株式の株式数は当連結会計年度末186千株であります。

(信託型従業員持株インセンティブ・プラン)

当行は、当行のグループ職員を対象に、当行グループの中長期的な企業価値向上へのインセンティブを付与すると同時に、福利厚生への増進策として、持株会の拡充を通じた職員の株式取得及び保有を促進することによる資産形成支援を目的とし、「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」を導入しております。

1. 取引の概要

当行は信託銀行に「阿波銀グループ職員持株会専用信託」（以下、「従持信託」という。）を設定し、従持信託は、その設定後3年間にわたり「阿波銀グループ職員持株会」（以下、「持株会」という。）が取得すると見込まれる数の当行株式を予め取得します。その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当行株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす職員に分配されます。

また、当行は、従持信託が当行株式を取得するための借入に対し保証をしているため、当行株価の下落により、従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、保証契約に基づき、当行が当該残債を弁済することになります。

なお、当該従持信託は2022年12月をもって終了しております。

2. 信託が保有する当行の株式に関する事項

信託が保有する当行の株式は、株主資本において自己株式として計上しております。

なお、当連結会計年度において、信託が保有する当行の株式を全て売却し当該従持信託が終了しているため、当連結会計年度末の自己株式の計上はありません。

3. 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当該従持信託が終了しているため、当連結会計年度末の借入金の計上はありません。

(連結貸借対照表関係)

※1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額

株式	50百万円
出資金	86百万円

※2. 無担保の消費貸借契約（債券貸借取引）により貸し付けている有価証券が、「有価証券」中の国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

52,863百万円

※3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、連結貸借対照表の「有価証券」中の社債（その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）によるものに限る。）、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返、リース債権及びリース投資資産の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券（使用貸借又は質貸借契約によるものに限る。）であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	16,163百万円
危険債権額	27,815百万円
三月以上延滞債権額	1,491百万円
貸出条件緩和債権額	5,303百万円
合計額	50,773百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

※4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

7,035百万円

※5. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	134,231百万円
担保資産に対応する債務	
預金	
（日本銀行代理店契約によるもの）	12,476百万円
借入金	112,800百万円
上記のほか、為替決済、公金事務取扱等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。	
有価証券	1,593百万円
その他資産（中央清算機関差入証拠金）	20,000百万円
（その他資産）	42百万円

また、その他資産には、金融商品等差入担保金及び保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

金融商品等差入担保金	8,510百万円
保証金	292百万円

※6. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	368,311百万円
うち原契約期間が1年以内のもの又は	
任意の時期に無条件で取消可能なもの	356,570百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くは、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が行い申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内（社内）手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※7. その他資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、次のとおりであります。

452百万円

※8. 土地の再評価に関する法律(1998年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価を行った年月日 1999年3月31日

同法律第3条第3項に定める再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(1998年3月31日公布政令第119号)第2条のうち第1号に定める地価公示価格、第2号に定める基準地標準価格に基づいて、実行価格補正、時点修正等合理的な調整を行って算出。

同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 6,967百万円

※9. 有形固定資産の減価償却累計額 33,225百万円

※10. 有形固定資産の圧縮記帳額 696百万円

圧縮記帳額 (当連結会計年度の圧縮記帳額 一百万円)

※11. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額 18,626百万円

(連結損益計算書関係)

※1. 顧客との契約から生じる収益

經常収益については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載していません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

※2. その他の經常収益には、次のものを含んでおります。

株式等売却益 15,283百万円

※3. 営業経費には次のものを含んでおります。

給料・手当 9,420百万円

減価償却費 3,062百万円

事務委託費 3,668百万円

※4. その他の經常費用には、次のものを含んでおります。

貸出金債却 18百万円

株式等売却損 161百万円

株式等償却 48百万円

※5. 減損損失

営業利益の減少によるキャッシュ・フローの低下及び地価の下落した事業用資産等並びに移転・建替えの決定に伴い除却を予定している資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額701百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

区分	地域	主な用途	種類	減損損失
稼働資産	徳島県内	営業店舗等	9カ所	土地及び建物 671百万円
				（うち土地 565百万円）
				（うち建物 106百万円）
	徳島県外	営業店舗	1カ所	建物 23百万円
遊休資産	徳島県内	遊休資産	4カ所	土地 6百万円
合計				土地及び建物 701百万円
				（うち土地 572百万円）
				（うち建物 129百万円）

グループの方法

当行の資産のグループの方法は、管理会計上の最小区分である営業店単位（ただし、連携して営業を行っている営業店グループは当該グループ単位）で行っております。また、連結子会社は各社を一つの単位としてグループングを行っております。

回収可能価額の算定方法

資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、「不動産鑑定評価基準」に準拠して評価した額から処分費用見込額を控除して算定しております。ただし、移転・建替えの決定に伴い除却を予定している資産については回収可能価額を零としております。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額 その他有価証券評価差額金：	
当期発生額	△26,395百万円
組替調整額	3,517百万円
税効果調整前	△22,878百万円
税効果額	6,905百万円
その他有価証券評価差額金	△15,973百万円
繰延ヘッジ損益：	
当期発生額	△6,762百万円
組替調整額	6,370百万円
税効果調整前	△392百万円
税効果額	119百万円
繰延ヘッジ損益	△272百万円
その他の包括利益合計	△16,245百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項
(千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	43,240	—	2,200	41,040	(注)1
合計	43,240	—	2,200	41,040	
自己株式					
普通株式	1,603	1,000	2,330	273	(注)2,3
合計	1,603	1,000	2,330	273	

(注)1. 発行済株式の普通株式数の減少2,200千株は、自己株式の消却2,200千株によるものであります。
2. 当連結会計年度期首の自己株式数には、役員報酬BIP信託及び従持信託が保有する当行株式が202千株及び114千株、当連結会計年度末の自己株式数には、役員報酬BIP信託が保有する当行株式が186千株含まれております。
3. 自己株式の普通株式数の増加1,000千株は、単元未満株式の取得0千株及び市場買付け1,000千株によるものであります。
自己株式の普通株式数の減少2,330千株は、単元未満株式の売却0千株、役員報酬BIP信託による当行株式の交付等16千株、従持信託による当行株式の売却114千株及び自己株式の消却2,200千株によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月13日 取締役会	普通株式	943	22.50	2022年3月31日	2022年6月10日
2022年11月11日 取締役会	普通株式	932	22.50	2022年9月30日	2022年12月5日

(注)1. 2022年5月13日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託及び従持信託が保有する当行株式に対する配当金がそれぞれ4百万円及び2百万円含まれております。
2. 2022年11月11日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託及び従持信託が保有する当行株式に対する配当金がそれぞれ4百万円及び0百万円含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年5月12日 取締役会	普通株式	1,126	その他利益剰余金	27.50	2023年3月31日	2023年6月12日

(注) 配当金の総額には、役員報酬BIP信託が保有する当行株式に対する配当金が5百万円含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	
現金預け金勘定	482,868百万円
預け金(日銀預け金を除く)	△26,374百万円
現金及び現金同等物	456,494百万円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンスリース取引

- リース資産の内容
有形固定資産
事務機器であります。
- リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項」の「(3) 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当行グループは、銀行業務を中心にリース業務等の金融サービスを提供しており、主に預金で調達した資金を、貸出金や有価証券等で運用しております。
この金融資産及び金融負債の健全かつ効率的運営を行うため、資産・負債の総合管理(ALM)を実施し、その一環としてデリバティブ取引を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当行グループが保有する金融資産は、主として国内の法人及び個人に対する貸出金であり、国内景気や融資先の経営状況の悪化等によってもたらされる信用リスクを内包しております。なお、当行グループの与信内容は、特定の先に集中することなく小口分散されております。また、有価証券は、債券、株式、投資信託等に投資しており、これらは、それぞれ発行体の信用リスク、金利の変動リスク及び市場価格の変動リスクを内包しております。なお、当行グループは、安全性の高い国債、地方債等を中心にポートフォリオを組成しております。

当行グループが保有する金融負債は、主として国内の法人及び個人からの預金であり、風評等に伴う予期せぬ資金流出により必要な資金の確保が困難になる流動性リスクを内包しております。なお、当行グループでは、資金の逼迫をもたらすことのないよう、資産の健全性と信用の維持・向上に努めるほか、常に余裕を持った資金繰りを行っております。

当行のデリバティブ取引には、金利スワップ取引、通貨スワップ取引、為替予約取引、通貨オプション取引及び債券先物取引等があります。これらは、資産・負債に係る将来の金利変動、価格変動及び為替変動のリスクを回避しつつ、収益を確保するとともに多様な金融サービスに対するお客さまのニーズに応えることを目的として行っております。

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、業種別委員会実務指針第24号に規定する繰延ヘッジによるものであります。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間ごとにグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。なお、ヘッジ手段とヘッジ対象の条件がほぼ同一のヘッジについては、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動をほぼ相殺しているため、有効性の評価を省略しております。

また、当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、業種別委員会実務指針第25号に規定する繰延ヘッジによるものであります。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

なお、デリバティブ取引には市場リスクや信用リスクを内包しておりますが、当行のデリバティブ取引は、銀行業務の健全な運営に資するものに限定しており、仕組みが複雑で投機的な取引は行っておりません。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当行の金融商品に係るリスク管理体制については、以下のとおりであります。なお、連結子会社におけるリスク管理体制については、当行のリスク管理体制に準じております。

① 信用リスクの管理

当行では、「信用リスク管理方針」を定め、各部門において適切にリスク管理を執行し、信用リスクを有する資産の健全性の維持・向上、及び最適なポートフォリオの構築に努めております。また、信用リスク管理手法の見直しを継続的に進め、その高度化を図っております。

資産の健全性を維持・向上させるため、本部審査部門は従来から一貫して営業推進部門等からの独立性を確保し、適切な審査・管理を行う態勢としております。また、リスク統括部が信用格付・自己査定・検証、与信ポートフォリオ管理等により、営業店や本部審査部門に対して牽制機能を発揮するとともに、信用格付・自己査定制度の更なる充実に取り組んでおります。

② 市場リスクの管理

イ 金利リスク、価格変動リスク及び為替変動リスクの管理

当行では、「経営体力の範囲内で適正な市場リスクをとり、収益の安定的向上を図るため、当行の有する市場リスクを的確に把握するとともに、経営体力、業務の規模・特性に見合った管理・コントロールを実施する」を基本方針とし、管理態勢の充実と努め、市場リスクの最適化を図っております。

市場担当部署では、市場取引を行う部署(フロントオフィス)と事務管理・リスク管理を行う部署(バックオフィス・ミドルオフィス)を分離した形で設置し、ミドルオフィスが定期的に損益状況や市場リスクを計測し、経営陣に報告する態勢としております。

また、担当部署とは独立した部署(リスク統括部)においてもリスク量、損益状況等をモニタリングし、定期的にALM委員会に報告するとともに、今後の対応についても協議を行う等、リスク管理の一層の強化に努めております。

具体的な管理手法としては、VaR(バリュー・アット・リスク)法を用いて、金利リスク、価格変動リスク及び為替変動リスクの統合管理を行っております。

また、円金利リスクについては、預金・貸出金を含めた銀行全体でのリスクをギャップ分析、現在価値分析、BPV(ベシス・ポイント・バリュー)法などによりきめ細かく管理しております。

ロ 市場リスクに係る定量的情報

当行では、市場リスクに関するVaRの算定にあたっては、分散共分散法(保有期間60営業日(政策株式は120営業日)、信頼区間99%、観測期間250営業日)を採用しております。

当連結会計年度末における市場リスク量(損失額の推計値)は、全体で68,301百万円であり、

なお、預貸金の金利リスクについては、流動性預金のうち、引き出されることなく長期間滞留する預金をコア預金として、内部モデルにより最長10年の満期に振り分け、金利リスクを認識しております。

また、当行では、モデルが算出するVaRと仮想損益(リスク量計測時点のポートフォリオを固定した場合に保有期間後に発生したと想定される損益)を比較するバックテスティングを定期的実施しており、使用する計測モデルは十分な精度により市場リスクを捕捉しているものと考えております。ただし、VaRは過去の相場変動をベースに統計的に算出した一定の発生確率での市場リスク量を計測しており、通常では考えられないほど市場環境が激変する状況下におけるリスクは捕捉できない場合があります。

③ 調達に係る流動性リスクの管理

当行では、資金の逼迫をもたらすことのないよう資産の健全性と信用の維持に努めるほか、常に余裕を持った資金繰りを行うことができるよう資金調達や運用状況の分析を日々綿密に行うとともに、国債等の換金性の高い資産については健全な保有比率を維持しております。

また、資金繰り逼迫時の対応をまとめた危機管理対策を予め策定し、流動性リスク管理に万全を期しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金は、次表には含めておりません(注1)参照。また、現金は注記を省略しており、預け金のうち日銀預け金、コールローン及び買入手形、外国為替(資産・負債)、コールマネー及び売渡手形並びに債券貸借取引受入担保金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(百万円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金(日銀預け金を除く)	26,374	26,259	△115
(2) 買入金銭債権	817	817	—
(3) 有価証券	—	—	—
満期保有目的の債券	—	—	—
その他の有価証券	917,942	917,942	—
(4) 貸出金	2,172,312	—	—
貸倒引当金(*1)	△18,227	—	—
	2,154,085	2,158,734	4,648
(5) リース債権及びリース投資資産	30,057	—	—
貸倒引当金(*1)	△670	—	—
	29,386	31,372	1,986
資産計	3,128,606	3,135,125	6,519
(1) 預金	3,250,619	3,250,725	106
(2) 譲渡性預金	130,006	130,008	2
(3) 借入金	128,110	128,071	△38
負債計	3,508,735	3,508,805	69
デリバティブ取引(*2)	—	—	—
ヘッジ会計が適用されていないもの	(564)	(564)	—
ヘッジ会計が適用されているもの(*3)	(10,214)	(10,214)	—
デリバティブ取引計	(10,778)	(10,778)	—

(*1) 貸出金並びにリース債権及びリース投資資産に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) その他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、() で表示しております。

(*3) ヘッジ対象である貸出金等の相場変動の相殺のためにヘッジ手段として指定した金利スワップ等であり、主に繰延ヘッジを適用しております。なお、これらのヘッジ関係は、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号2022年3月17日)を適用しております。

(注1) 市場価格のない株式等及び組合出資金の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価情報の「その他有価証券」には含まれておりません。

(百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
非上場株式(*1)(*2)	7,899
組合出資金(*3)	9,528

(*1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2020年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(*2) 非上場株式について29百万円減損処理を行っております。

(*3) 組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日)第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預け金	416,431	25,000	—	—	—	—
コールローン及び買入手形	140,894	—	—	—	—	—
買入金銭債権	816	—	—	—	—	—
有価証券	—	—	—	—	—	—
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	—
国債	—	—	—	—	—	—
地方債	—	—	—	—	—	—
短期社債	—	—	—	—	—	—
社債	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	82,375	131,741	123,496	59,351	69,134	183,921
国債	18,700	23,700	8,700	10,500	19,500	64,000
地方債	19,478	44,171	31,064	19,198	14,767	41,035
短期社債	—	—	—	—	—	—
社債	30,112	46,218	62,268	18,665	28,736	77,551
その他	14,083	17,651	21,463	10,987	6,130	1,335
貸出金(*1)	416,333	419,848	355,061	266,098	255,816	396,543
リース債権及びリース投資資産(*2)	8,514	12,423	6,574	1,517	499	47
合計	1,065,385	589,013	485,132	326,967	325,451	580,513

(*1) 貸出金のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない43,230百万円、期間の定めのないもの19,379百万円は含めておりません。

(*2) リース債権及びリース投資資産のうち、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない490百万円は含めておりません。また、期間の定めのないものはありません。

(注3) 社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(百万円)

	1年以内	1年超 3年以内	3年超 5年以内	5年超 7年以内	7年超 10年以内	10年超
預金(*)	3,107,960	121,558	18,676	867	1,556	—
譲渡性預金	130,006	—	—	—	—	—
コールマネー及び売渡手形	—	—	—	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	—	—	—	—	—	—
借入金	65,373	6,261	55,260	854	143	217
合計	3,303,340	127,819	73,936	1,722	1,700	217

(**) 預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価: 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価: 観察可能な時価に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価: 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

(百万円)

区分	時 価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
買入金銭債権	—	—	103	103
有価証券	—	—	—	—
その他有価証券	—	—	—	—
国債・地方債等	147,591	170,687	—	318,279
社債	—	245,380	18,448	263,829
株式	108,216	—	—	108,216
その他	77,217	150,398	—	227,616
デリバティブ取引(*)	—	—	—	—
金利関連	—	1,124	—	1,124
通貨関連	—	7,300	—	7,300
資産計	333,026	574,892	18,552	926,471
デリバティブ取引(*)	—	—	—	—
金利関連	—	1,843	—	1,843
通貨関連	—	17,360	—	17,360
負債計	—	19,204	—	19,204

(**) ヘッジ対象である貸出金等の相場変動の相殺のためにヘッジ手段として指定した金利スワップ等であり、主に繰延ヘッジを適用しております。なお、これらのヘッジ関係は、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号2022年3月17日)を適用しております。

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(百万円)

区分	時 価			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
預け金(日銀預け金を除く)	—	26,259	—	26,259
買入金銭債権	—	—	713	713
貸出金	—	—	2,158,734	2,158,734
リース債権及びリース投資資産	—	—	31,372	31,372
資産計	—	26,259	2,190,820	2,217,079
預金	—	3,250,725	—	3,250,725
譲渡性預金	—	130,008	—	130,008
借入金	—	114,558	13,512	128,071
負債計	—	3,495,292	13,512	3,508,805

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

資 産

預け金(日銀預け金を除く)

預け金(日銀預け金を除く)のうち、満期のないもの及び約定期間が短期間(1年以内)のものは、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。満期があり約定期間が長期間(1年超)のものは、デリバティブ内包型預金であり、時価は金利及びインプライド・ボラティリティ等の観察可能なインプットを用いた金融機関から提示された価額に基づき算定しております。当該時価はレベル2の時価に分類してしております。

買入金銭債権

買入金銭債権のうち、信託受益権については、有価証券に準じて算定しております。また、ファクタリングについては、約定期間が短期間(1年以内)であり、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類してしております。

有価証券

有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類してしております。主に上場株式や国債がこれに含まれます。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類してしております。主に地方債、社債、その他の証券がこれに含まれます。また、市場における取引価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類してしております。

相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価に当たっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、TIBOR、スワップ金利等が含まれます。また、社債のうち銀行保証付私募債のインプットには、信用スプレッド（発行体の内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規引受を行った場合に想定される利率）が含まれます。なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債券等計上額から貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該時価を時価としております。算定に当たり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。

貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。固定金利によるものは、信用スプレッド（貸出金の種類及び内部格付、期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額を同様の新規貸出を行った場合に想定される利率）で割り引いて時価を算定しております。なお、約定期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該時価を時価としております。貸出金のうち、当該貸出を担保資産の範囲内に限るなどの特性により、返済期限を設けていないものについては、返済見込み期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

リース債権及びリース投資資産

リース債権及びリース投資資産については、債務者区分ごとに貸倒実績率等を考慮した将来キャッシュ・フローを、連結決算日時点の市場金利で割り引いて時価を算定しております。なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等については、担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は連結決算日における連結貸借対照表上の債権等計上額から貸倒引当金計上額を控除した金額に近似しており、当該時価を時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

負債

預金、及び譲渡性預金

要求払預金については、連結決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。また、変動金利定期預金、規定期限預金、非居住者円定期預金及び外貨定期預金については、重要性が乏しいことから、当該帳簿価額を時価としております。定期性預金及び譲渡性預金の時価は、その種類及び期間ごとに区分して、将来キャッシュ・フローを割り引いて現在価値を算定しております。その割引率は、新規に預金を受け入れる際に使用する利率を用いております。なお、預入期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

借入金

借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当行及び連結子会社の信用状態は実行後大きく異ならないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額を時価としております。また、約定期間が短期間（1年以内）のものは、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。当該時価はレベル2の時価に分類しております。

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定し、時価としております。当該時価はレベル3の時価に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しており、主に債券先物取引や金利先物取引がこれに含まれます。

ただし、大部分のデリバティブ取引は店頭取引であり、公表された相場価格が存在しないため、取引の種類や満期までの期間に応じて割引現在価値法やブラック・ショールズ・モデル等の評価技法を利用して時価を算定しております。それらの評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート、ボラティリティ等であり、観察できないインプットを用いていない又はその影響が重要でない場合はレベル2の時価に分類しており、プレイン・パニラ型の金利スワップ取引、通貨スワップ取引、通貨オプション取引、為替予約取引等が含まれます。

(注2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品のうちレベル3の時価に関する情報

(1) 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券 その他有価証券 社債	割引現在価値法	信用スプレッド	0.059%~ 5.997%	0.828%

(2) 期首残高から期末残高への調整表、当期の損益に認識した評価損益

(百万円)

	期首 残高	当期の損益又は その他の包括利益		購入、 売却、 発行及び 決済の 純額	レベル3 の時価 への 振替	レベル3 の時価 からの 振替	期末 残高	当期の損益に計上 した額のうち連結 貸借対照表において 保有する金融資 産及び金融負債の 評価損益（*1）
		損益に 計上 （*1）	その他の 包括利益 に計上 （*2）					
買入金銭債権 有価証券 その他有価証券 社債	201 18,912	- △18	△0 127	△97 △572	- -	- -	103 18,448	- -

(*1) 連結損益計算書の「その他業務収益」及び「その他業務費用」に含まれております。

(*2) 連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(3) 時価の評価プロセスの説明

当行グループはリスク管理部門において時価の算定に関する方針及び手続を定めており、これに沿って各取引部門が時価を算定しております。算定された時価は、評価部門において、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証しております。検証結果は毎期リスク管理部門に報告され、時価の算定の方針及び手続に関する適切性が確保されております。

時価の算定に当たっては、個々の資産の性質、特性及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを用いております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

(4) 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

社債のうち銀行保証付私募債の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、信用スプレッドであります。このインプットの著しい増加（減少）は、それ単独では、時価の著しい低下（上昇）を生じさせることとなります。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行及び連結子会社は、確定拠出制度としてリスク分担型企業年金及び確定拠出年金制度を採用しております。

従来は、確定給付型の制度として企業年金基金制度及び退職一時金制度を採用するとともに、確定拠出年金制度を採用しておりました。このうち確定給付型の制度について、2021年4月1日に「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号2016年12月16日）第4項に定める確定拠出制度に分類されるリスク分担型企業年金へ移行しております。また、同日、当行において設定しておりました退職給付信託を解約しております。

リスク分担型企業年金は、標準掛金相当額のほかにリスク対応掛金相当額が予め規約に定められており、毎連結会計年度におけるリスク分担型企業年金の財政状況に応じて給付額が増減するため、年金に関する財政の均衡が図られる設計となっております。

2. 確定拠出制度

(1) 確定拠出制度に係る退職給付費用の額

当行及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は当連結会計年度839百万円です。

(2) リスク対応掛金相当額に係る事項

翌連結会計年度以降に拠出することが要求されるリスク対応掛金相当額はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	9,909百万円
減価償却	766百万円
税務上の繰越欠損金	4百万円
繰延ヘッジ損益	130百万円
その他	2,057百万円
繰延税金資産小計	12,858百万円
評価性引当額	△2,958百万円
繰延税金資産合計	9,900百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△245百万円
その他有価証券評価差額金	△18,894百万円
その他	△1百万円
繰延税金負債合計	△19,142百万円
繰延税金負債の純額	△9,241百万円

2. 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

当該差異が法定実効税率の5/100以下のため記載しておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(百万円)

区分	報告セグメント			調整額	合計
	銀行業	リース業	計		
役務取引等収益	8,166	—	8,166	—	8,166
預金・貸出業務	997	—	997	—	997
為替業務	1,309	—	1,309	—	1,309
証券関連業務	1,777	—	1,777	—	1,777
代理業務	1,600	—	1,600	—	1,600
その他	2,482	—	2,482	—	2,482
顧客との契約から生じる 経常収益	8,166	—	8,166	—	8,166
上記以外の経常収益	64,657	15,257	79,915	—	79,915
外部顧客に対する経常収益	72,824	15,257	88,081	—	88,081

2. 収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (13) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

- (ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
該当事項はありません。
- (イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
該当事項はありません。
- (ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
該当事項はありません。
- (エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合 (%)	関連 当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	大上木材企業組合 (注) 1	勝浦郡上勝町	3	製材業	—	資金貸借	資金貸付 (注) 2.3 受入利息 (注) 2.3	— 0	貸出金 前受収益	16 0

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 当が取締役監査等委員橋爪正樹氏の近親者が業務執行を決定する権限を100%所有しております。
2. 取引条件等は一般取引先と同様であります。
3. 橋爪正樹氏は2022年6月29日付で当が取締役監査等委員に就任しておりますので、上記の取引金額については同日以降のものを記載しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

- (ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等
該当事項はありません。
- (イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等
該当事項はありません。
- (ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等
該当事項はありません。
- (エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

- (1) 親会社情報
該当事項はありません。
- (2) 重要な関連会社の要約財務情報
該当事項はありません。

(連結ベースの1株当たり情報)

(円)

	2023年3月期
連結ベースの1株当たり純資産額	6,838.08
連結ベースの1株当たり当期純利益	248.21

- (注) 1. 役員報酬BIP信託及び従持信託が保有する当行株式は株主資本において自己株式として計上しており、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益の算定上、期末発行済株式総数並びに期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
控除した当該自己株式の期末株式数は186千株（役員報酬BIP信託186千株）であり、期中平均株式数は230千株（うち役員報酬BIP信託190千株、従持信託40千株）であります。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないので記載しておりません。
3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

(百万円、千株)

	2023年3月期
純資産の部の合計額	278,763
純資産の部の合計額から控除する金額	—
普通株式に係る期末の純資産額	278,763
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	40,766

4. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

(百万円、千株)

	2023年3月期
連結ベースの1株当たり当期純利益	—
親会社株主に帰属する当期純利益	10,207
普通株主に帰属しない金額	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	10,207
普通株式の期中平均株式数	41,122

(重要な後発事象)

- 子会社の設立
当行は、2023年6月29日開催の取締役会において「阿波銀キャピタル株式会社」の設立を決議いたしました。
＜投資専門子会社の設立＞
1. 設立の目的
新経営計画「Growing beyond 130th」における重要課題「地域経済の発展と産業振興」への対応として、ベンチャー企業並びに事業承継に取組む企業への積極的な支援・育成など、持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的に、当該子会社を設立いたしました。
 2. 子会社の概要
会社名 : 阿波銀キャピタル株式会社
本店所在地 : 徳島市東船場町2丁目21-2 阿波銀住友生命ビル3F
事業内容 : 投資事業有限責任組合（ファンド）の運営・管理業務
コンサルティング業務
上記に付帯または関連する一切の業務
資本金 : 1億円
設立時期 : 2023年7月
株主 : 株式会社阿波銀行（100%子会社）

■連結リスク管理債権額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	16,384	16,163
危険債権額	27,497	27,815
三月以上延滞債権額	254	1,491
貸出条件緩和債権額	7,328	5,303
合計額	51,464	50,773
正常債権	2,123,073	2,180,228
部分直接償却実施額	18,610	16,548

用語説明

- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは**
破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
- 危険債権とは**
債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。
- 三月以上延滞債権とは**
元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものであります。
- 貸出条件緩和債権とは**
債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものであります。

■連結自己資本比率（国内基準）

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準（2006年金融庁告示第19号。）に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

(百万円)

	2022年3月末	2023年3月末
(1) 連結自己資本比率 ((2) / (3))	11.31%	11.21%
(2) 連結における自己資本の額	227,661	233,628
(3) リスク・アセットの額	2,012,046	2,082,682
(4) 連結総所要自己資本額 ((3) × 4%)	80,481	83,307

詳しくは、別冊「バーゼルⅢディスクロージャー誌2023」をご参照ください。

■セグメント情報等

1. セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当行グループの報告セグメントは、当行グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、当行のALM委員会及び経営会議が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当行グループは、銀行業務を中心に、リース業務等の金融サービスに係る事業を行っております。

従いまして、当行グループは、金融業におけるサービス別のセグメントから構成されており、「銀行業」「リース業」の2つを報告セグメントとしております。

「銀行業」は、預金・貸出業務、有価証券投資業務、為替業務等を行っております。

なお、「銀行業」は、当行の銀行業務と銀行業務の補完として行っている連結子会社の信用保証業務、クレジットカード業務、経営コンサルティング業務、ECモール運営業務及び成長企業への投資業務を集約しております。

「リース業」は、連結子会社の阿波銀リース株式会社において、リース業務等を行っております。

2. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項における記載と同一であります。報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であり、セグメント間の内部経常収益は、第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの経常収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

2022年3月期

(百万円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	53,168	14,770	67,939	△0	67,938
セグメント間の内部経常収益	684	177	861	△861	—
計	53,852	14,948	68,800	△861	67,938
セグメント利益	15,873	781	16,655	△520	16,134
セグメント資産	3,947,255	42,870	3,990,125	△12,399	3,977,726
セグメント負債	3,675,097	26,611	3,701,709	△12,387	3,689,322
その他の項目					
減価償却費	2,931	135	3,066	54	3,120
資金運用収益	39,281	68	39,349	△547	38,801
資金調達費用	1,597	56	1,653	△27	1,626
特別利益	0	9	10	35	45
(固定資産処分益)	(0)	(—)	(0)	(—)	(0)
(退職給付制度終了益)	(—)	(9)	(9)	(35)	(44)
特別損失	230	0	230	0	230
(固定資産処分損)	(89)	(0)	(89)	(0)	(89)
(減損損失)	(140)	(—)	(140)	(—)	(140)
税金費用	4,583	241	4,825	12	4,838
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	4,124	26	4,150	62	4,213

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

- 外部顧客に対する経常収益の調整額△0百万円は、株式等売却益の調整であります。
- セグメント利益の調整額△520百万円は、株式等売却益の調整及びセグメント間の取引消去であります。
- セグメント資産の調整額△12,399百万円は、セグメント間の取引消去等であります。
- セグメント負債の調整額△12,387百万円は、セグメント間の取引消去等であります。
- 減価償却費の調整額54百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
- 資金運用収益の調整額△547百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- 資金調達費用の調整額△27百万円は、セグメント間の取引消去であります。
- 退職給付制度終了益の調整額35百万円は、退職給付制度の終了に伴う調整であります。
- 固定資産処分損の調整額0百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
- 税金費用の調整額12百万円は、セグメント間の取引及び退職給付制度の終了により発生したものであります。
- 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額62百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	72,824	15,257	88,081	—	88,081
セグメント間の内部経常収益	693	171	865	△865	—
計	73,517	15,429	88,947	△865	88,081
セグメント利益	15,144	806	15,951	△522	15,428
セグメント資産	3,818,209	47,240	3,865,450	△15,120	3,850,329
セグメント負債	3,555,703	30,978	3,586,681	△15,115	3,571,566
その他の項目					
減価償却費	2,883	126	3,009	53	3,062
資金運用収益	44,566	71	44,638	△558	44,079
資金調達費用	7,563	63	7,626	△28	7,598
特別利益	0	0	0	—	0
(固定資産処分益)	(0)	(0)	(0)	(—)	(0)
(退職給付制度終了益)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
特別損失	779	5	785	0	785
(固定資産処分損)	(83)	(—)	(83)	(0)	(83)
(減損損失)	(695)	(5)	(701)	(—)	(701)
税金費用	4,190	244	4,435	0	4,435
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,111	834	3,945	48	3,994

(注) 1.一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。また、差異調整につきましては、経常収益と連結損益計算書の経常収益計上額との差異について記載しております。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△522百万円は、セグメント間の取引消去であります。
 - (2) セグメント資産の調整額△15,120百万円は、セグメント間の取引消去等であります。
 - (3) セグメント負債の調整額△15,115百万円は、セグメント間の取引消去等であります。
 - (4) 減価償却費の調整額53百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
 - (5) 資金運用収益の調整額△558百万円は、セグメント間の取引消去であります。
 - (6) 資金調達費用の調整額△28百万円は、セグメント間の取引消去であります。
 - (7) 固定資産処分損の調整額0百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
 - (8) 税金費用の調整額0百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
 - (9) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額48百万円は、セグメント間の取引により発生したものであります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 関連情報

(百万円)

1. サービスごとの情報

	2022年3月期					2023年3月期				
	貸出業務	有価証券 投資業務	リース業務	その他	合計	貸出業務	有価証券 投資業務	リース業務	その他	合計
外部顧客に対する経常収益	24,398	17,326	14,770	11,442	67,938	25,096	33,620	15,257	14,107	88,081

(注) 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 経常収益

当行グループは、本邦の外部顧客に対する経常収益に区分した金額が連結損益計算書の経常収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当行グループは、本邦以外の国又は地域に所在する有形固定資産を有していないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する経常収益で連結損益計算書の経常収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(百万円)

	2022年3月期			2023年3月期		
	報告セグメント			報告セグメント		
	銀行業	リース業	計	銀行業	リース業	計
減損損失	140	—	140	695	5	701

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

■会計監査人の監査の状況

1. 当行は、会社法第444条第4項の規定に基づき、会計監査人の監査を受けております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)及び当連結会計年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)の連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。なお、本ディスクロージャー誌の財務諸表は、監査を受けた財務諸表の内容、様式を一部変更・追加して作成しております。

■事業の概況

(1) 損益の状況

- 損益につきましては、経常収益は、株式等売却益や金融派生商品収益が増収となったことなどから、前年度比196億53百万円増収の722億29百万円となりました。
一方、経常費用は、貸倒引当金繰入額が減少となったものの、外国債券を中心に国債等債券売却損が増加したことなどから、前年度比204億22百万円増加の573億34百万円となりました。
この結果、経常利益は、前年度比7億68百万円減益の148億94百万円となり、当期純利益は、前年度比8億85百万円減益の101億44百万円となりました。

(2) 資産負債の状況

- 譲渡性預金を含めた預金につきましては、法人預金・個人預金・公金預金がいずれも順調に増加したことから、前年度比815億円増加し、当期末残高は3兆3,911億円となりました。
- 貸出金につきましては、地域密着型金融を推進する中、さまざまな資金ニーズに積極的にお応えした結果、前年度比553億円増加し、当期末残高は2兆1,696億円となりました。
なお、総貸出金残高に占める中小企業等貸出金の割合（中小企業等貸出金比率）は、82.58%と前年度比0.44ポイント低下いたしました。引続き高い水準を維持しております。
- 有価証券につきましては、外国証券の減少を主因として、当期末の有価証券残高は前年度比965億円減少し、9,454億円となりました。

■主要な経営指標等の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	単位
経常収益	52,308	52,251	50,152	52,576	72,229	百万円
うち信託報酬	1	3	2	2	2	百万円
経常利益	14,974	15,076	12,014	15,663	14,894	百万円
当期純利益	10,427	11,018	8,298	11,030	10,144	百万円
資本金	23,452	23,452	23,452	23,452	23,452	百万円
発行済株式総数	43,240	43,240	43,240	43,240	41,040	千株
純資産額	261,935	244,479	283,675	279,273	269,592	百万円
総資産額	3,308,398	3,355,885	3,844,293	3,956,485	3,826,971	百万円
預金残高	2,760,839	2,774,631	3,094,473	3,172,026	3,257,104	百万円
貸出金残高	1,896,473	1,960,547	2,084,214	2,114,303	2,169,686	百万円
有価証券残高	1,059,174	1,005,581	1,010,924	1,041,936	945,432	百万円
1株当たり純資産額	6,099.92	5,794.59	6,764.74	6,707.45	6,613.12	円
1株当たり配当額	27.00	45.00	40.00	42.50	50.00	円
(うち1株当たり中間配当額)	(4.50)	(22.50)	(20.00)	(20.00)	(22.50)	円
1株当たり当期純利益	240.54	258.47	197.87	263.42	246.70	円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	—	—	—	—	—	円
自己資本比率	7.91	7.28	7.37	7.05	7.04	%
単体自己資本比率（国内基準）	10.45	10.25	10.86	10.97	10.89	%
自己資本利益率	3.98	4.35	3.14	3.91	3.69	%
株価収益率	11.69	8.82	12.59	8.24	7.90	倍
配当性向	18.70	17.41	20.21	16.13	20.26	%
従業員数	1,267	1,290	1,267	1,257	1,262	人
[外、平均臨時従業員数]	[512]	[498]	[475]	[560]	[548]	
信託財産額	387	378	370	359	349	百万円
信託勘定貸出金残高	—	—	—	—	—	百万円
信託勘定有価証券残高 (信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高を除く。)	75	75	75	75	82	百万円
信託勘定暗号資産残高及び履行保証暗号資産残高	—	—	—	—	—	百万円
信託勘定電子記録移転有価証券表示権利等残高	—	—	—	—	—	百万円
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX)	83.84 (94.96)	69.56 (85.93)	76.89 (122.14)	68.72 (124.57)	63.70 (131.81)	%
最高株価	3,510 (751)	2,953	2,797	2,525	2,290	円
最低株価	2,606 (646)	1,620	2,072	1,914	1,802	円

(注) 1. 2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益につきましては、2019年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算出しております。
2. 2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。2019年3月期の1株当たり配当27.00円は、中間配当額4.50円と期末配当額22.50円の合計であり、中間配当額4.50円は株式併合前の配当額、期末配当額22.50円は株式併合後の配当額であります。
3. 2023年3月期中間配当についての取締役会決議は2022年11月11日に行いました。
4. 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式がないため記載しておりません。
5. 自己資本比率は、期末純資産の部合計を期末資産の部合計で除して算出しております。
6. 単体自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく2006年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は、国内基準を採用しております。
7. 最高株価及び最低株価は、2023年3月期より東京証券取引所プライム市場におけるものであり、それ以前については東京証券取引所市場第一部におけるものであります。なお、2019年3月期の株価につきましては、株式併合後の最高株価及び最低株価を記載しており、株式併合前の最高株価及び最低株価を()内に記載しております。

■財務諸表

貸借対照表

(百万円)

(百万円)

資産の部		
科目	2022年3月期	2023年3月期
現金預け金	690,232	482,865
現金	40,408	41,436
預け金	649,824	441,428
コールローン	18,358	140,894
買入金銭債権	1,398	817
有価証券*1,2,3,5,8	1,041,936	945,432
国債	173,782	147,591
地方債	167,769	170,687
社債	173,109	263,829
株式	143,947	124,741
その他の証券	383,328	238,582
貸出金*3,6	2,114,303	2,169,686
割引手形*4	6,764	6,977
手形貸付	103,726	98,641
証書貸付	1,914,640	1,967,423
当座貸越	89,171	96,643
外国為替*3	9,240	8,879
外国他店預け	9,045	8,739
買入外国為替*4	47	58
取立外国為替	146	81
その他資産*3	47,118	44,229
未収収益	3,093	3,410
金融派生商品	7,809	8,425
金融商品等差入担保金	11,507	8,510
その他の資産*5	24,707	23,883
有形固定資産*7	37,713	37,224
建物	13,717	13,766
土地	21,047	20,600
リース資産	98	50
建設仮勘定	1,102	1,180
その他の有形固定資産	1,747	1,626
無形固定資産	4,451	4,411
ソフトウェア	4,344	4,304
その他の無形固定資産	106	106
支払承諾見返*3	8,482	8,924
貸倒引当金	△16,752	△16,393
資産の部合計	3,956,485	3,826,971

負債及び純資産の部		
科目	2022年3月期	2023年3月期
(負債の部)		
預金*5	3,172,026	3,257,104
当座預金	182,566	188,393
普通預金	1,895,626	2,009,338
貯蓄預金	31,524	31,667
通知預金	12,560	16,957
定期預金	940,026	910,339
定期積金	6,703	7,072
その他の預金	103,019	93,336
譲渡性預金	137,504	134,006
コールマネー	12,850	—
債券貸借取引受入担保金	40,945	—
借入金*5	254,425	113,558
借入金	254,425	113,558
外国為替	18	2
売渡外国為替	18	0
未払外国為替	0	2
その他負債	31,497	30,360
未決済為替借	0	0
未払法人税等	2,581	5
未払費用	860	811
前受収益	1,287	1,198
給付補填備金	0	0
金融派生商品	21,116	19,204
金融商品等受入担保金	2,435	5,671
リース債務	106	55
資産除去債務	140	157
その他の負債	2,968	3,256
役員賞与引当金	54	50
株式報酬引当金	257	290
睡眠預金払戻損失引当金	271	193
偶発損失引当金	1,205	1,314
繰延税金負債	14,978	9,026
再評価に係る繰延税金負債	2,691	2,545
支払承諾	8,482	8,924
負債の部合計	3,677,211	3,557,378
(純資産の部)		
資本金	23,452	23,452
資本剰余金	16,232	16,232
資本準備金	16,232	16,232
利益剰余金	180,240	183,862
利益準備金	14,064	14,064
その他利益剰余金	166,176	169,798
固定資産圧縮積立金	560	560
株式消却積立金	2,995	15
別途積立金	143,520	150,520
繰越利益剰余金	19,100	18,702
自己株式	△4,100	△846
株主資本合計	215,825	222,701
その他有価証券評価差額金	58,346	42,395
繰延ヘッジ損益	△24	△297
土地再評価差額金	5,126	4,792
評価・換算差額等合計	63,448	46,890
純資産の部合計	279,273	269,592
負債及び純資産の部合計	3,956,485	3,826,971

損益計算書

(百万円)

科目	2022年3月期	2023年3月期
経常収益	52,576	72,229
資金運用収益	39,587	44,973
貸出金利息	23,787	24,796
有価証券利息配当金	14,986	16,163
コールローン利息	108	3,478
預け金利息	698	525
その他の受入利息	6	8
信託報酬	2	2
役務取引等収益	8,153	7,919
受入為替手数料	1,517	1,366
その他の役務収益	6,636	6,552
その他業務収益	1,345	3,619
外国為替売買益	870	545
国債等債券売却益	381	648
国債等債券償還益	—	2
金融派生商品収益	70	2,397
その他の業務収益	23	25
その他経常収益	3,487	15,714
償却債権取立益	614	307
株式等売却益	2,653	15,283
金銭の信託運用益	0	0
その他の経常収益	219	123
経常費用	36,912	57,334
資金調達費用	1,597	7,563
預金利息	435	822
譲渡性預金利息	14	12
コールマネー利息	30	30
債券貸借取引支払利息	74	327
借入金利息	0	0
金利スワップ支払利息	929	3,308
その他の支払利息	112	3,061
役務取引等費用	1,203	1,219
支払為替手数料	303	229
その他の役務費用	900	990
その他業務費用	1,673	19,248
商品有価証券売買損	1	—
国債等債券売却損	1,669	19,227
国債等債券償却	2	21
営業経費	28,306	27,914
その他経常費用	4,131	1,388
貸倒引当金繰入額	3,193	889
貸出金償却	18	9
株式等売却損	505	161
株式等償却	156	18
その他の経常費用	257	309
経常利益	15,663	14,894
特別利益	0	0
固定資産処分益	0	0
特別損失	230	778
固定資産処分損	89	82
減損損失	140	695
税引前当期純利益	15,434	14,116
法人税、住民税及び事業税	4,660	3,054
法人税等調整額	△256	917
法人税等合計	4,404	3,971
当期純利益	11,030	10,144

株主資本等変動計算書

(百万円)

	2022年3月期								
	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金				
				固定資産圧縮 積立金	株式消却 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	23,452	16,232	16,232	14,064	560	2,995	136,520	16,758	170,898
当期変動額									
剰余金の配当								△1,696	△1,696
株式消却積立金の積立									
株式消却積立金の取崩									
別途積立金の積立							7,000	△7,000	—
当期純利益								11,030	11,030
自己株式の取得									
自己株式の処分								△0	△0
自己株式の消却									
土地再評価差額金の取崩								8	8
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	7,000	2,342	9,342
当期末残高	23,452	16,232	16,232	14,064	560	2,995	143,520	19,100	180,240

(百万円)

	2022年3月期						
	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△3,529	207,054	73,014	△1,528	5,134	76,620	283,675
当期変動額							
剰余金の配当		△1,696					△1,696
株式消却積立金の積立		—					—
株式消却積立金の取崩		—					—
別途積立金の積立		—					—
当期純利益		11,030					11,030
自己株式の取得	△960	△960					△960
自己株式の処分	389	389					389
自己株式の消却		—					—
土地再評価差額金の取崩		8					8
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）			△14,667	1,503	△8	△13,172	△13,172
当期変動額合計	△571	8,770	△14,667	1,503	△8	△13,172	△4,401
当期末残高	△4,100	215,825	58,346	△24	5,126	63,448	279,273

(百万円)

	2023年3月期								
	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金				
				固定資産圧縮積立金	株式消却積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	23,452	16,232	16,232	14,064	560	2,995	143,520	19,100	180,240
当期変動額									
剰余金の配当								△1,876	△1,876
株式消却積立金の積立						2,000		△2,000	—
株式消却積立金の取崩						△4,980		4,980	—
別途積立金の積立							7,000	△7,000	—
当期純利益								10,144	10,144
自己株式の取得									
自己株式の処分								△0	△0
自己株式の消却								△4,980	△4,980
土地再評価差額金の取崩								333	333
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△2,980	7,000	△398	3,621
当期末残高	23,452	16,232	16,232	14,064	560	15	150,520	18,702	183,862

(百万円)

	2023年3月期						
	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△4,100	215,825	58,346	△24	5,126	63,448	279,273
当期変動額							
剰余金の配当		△1,876					△1,876
株式消却積立金の積立		—					—
株式消却積立金の取崩		—					—
別途積立金の積立		—					—
当期純利益		10,144					10,144
自己株式の取得	△2,067	△2,067					△2,067
自己株式の処分	342	342					342
自己株式の消却	4,980	—					—
土地再評価差額金の取崩		333					333
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			△15,950	△272	△333	△16,557	△16,557
当期変動額合計	3,254	6,876	△15,950	△272	△333	△16,557	△9,680
当期末残高	△846	222,701	42,395	△297	4,792	46,890	269,592

注記事項（2023年3月期）

（重要な会計方針）

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定額法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物：19年～50年

その他：4年～8年

(2) 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

4. 収益の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号2021年3月26日）を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識しております。

当行は、次の5つのステップを適用し顧客との取引に関する収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

当行の顧客との取引に関する収益は、主として約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で認識される取引サービスに係るものであり、為替業務等に係る手数料、資金取引に係る手数料、証券業務等に係る手数料、代理業務等に係る手数料、その他銀行サービスの提供等に係る手数料等が含まれます。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下、「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下、「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下、「破綻懸念先」という。）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額（以下、「非保全額」という。）に対する予想損失額を計上しております。予想損失額は、3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づく予想損失率により算定しており、予想損失率には、必要と認める下限値を設定しております。

「資本的劣後ローン(早期経営改善特例型)」や「十分な資本的性質が認められる借入金」については、「資本性適格貸出金に対する貸倒見積高の算定及び銀行等金融機関が保有する貸出債権を資本性適格貸出金に転換した場合の会計処理に関する監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第32号2020年9月9日）に基づき、「劣後性を有する資本性適格貸出金の回収可能見込額をゼロとみなして貸倒見積高を算定する方法」により算定しております。

また、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先以外の債権のうち、「宿泊業」、「飲食業」など新型コロナウイルス感染症の影響が大きい業種の一定の条件に該当する債務者に係る債権については、次のとおり予想損失額を算定しております。

①条件変更を行っていない債務者については、債権額に、条件変更を行った際に発生が見込まれる信用リスクの増加を勘案した予想損失率を乗じた額を計上

②条件変更を行っている債務者については、債務者区分に応じた予想損

失額に加え、非保全額に一定の毀損率を乗じた額を計上

上記以外の債権については、今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づく予想損失率により算定しております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は16,548百万円であります。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与引当金は、役員への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 株式報酬引当金

株式報酬引当金は、役員への当行株式の交付等に備えるため、株式交付規程に基づき、役員に対する株式給付債務の見込額のうち、当事業年度未までに発生していると認められる額を計上しております。

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積もり、必要と認める額を計上しております。

(5) 偶発損失引当金

偶発損失引当金は、他の引当金で引当対象とした事象以外の偶発事象に対し、将来発生する可能性のある損失を見積もり、必要と認められる額を計上しております。

7. ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号2022年3月17日）。以下、「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の(残存)期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。なお、ヘッジ手段とヘッジ対象の条件がほぼ同一のヘッジについては、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動をほぼ相殺しているため、有効性の評価を省略しております。

また、これらのヘッジ関係に、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」（実務対応報告第40号2022年3月17日）を適用しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号2020年10月8日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

当行はリスク分担型企業年金制度及び確定拠出年金制度を採用しており、要拠出額をもって費用処理しております。

(2) 消費税等の会計処理

有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

（重要な会計上の見積り）

会計上の見積りにより当事業年度に係る財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る財務諸表に重要な影響を与える可能性があるものは、次のとおりです。

1. 貸倒引当金

(1) 当事業年度に係る財務諸表に計上した額

貸倒引当金 16,393百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

①算出方法

貸倒引当金の算出方法は「重要な会計方針」6. 引当金の計上基準」〔(1) 貸倒引当金〕に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は、「債務者の将来の業績見通し」であります。「債務者の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。また、新型コロナウイルス感染症の経済への影響については、2023年度は、全体としては回復傾向にあるものの、「宿泊業」、「飲食

業」など特定の業種においては依然として影響が大きく、当該業種の債務者については、他の業種と比べて信用リスクが高まると仮定し、貸倒引当金を算定しております。これによる追加引当額は605百万円でありま

③翌事業年度に係る財務諸表に与える影響

個別貸出先の業績変化及び新型コロナウイルス感染症の経済への影響が、当事業年度末の見積りに用いた仮定と大きく異なる場合は、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下、「時価算定会計基準適用指針」という。)を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

(追加情報)

(役員報酬BIP信託)

役員報酬BIP信託に関する注記につきましては、連結財務諸表の「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(信託型従業員持株インセンティブ・プラン)

信託型従業員持株インセンティブ・プランに関する注記につきましては、連結財務諸表の「注記事項(追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1. 関係会社の株式又は出資金の総額

株式	12,843百万円
出資金	1,523百万円

※2. 無担保の消費貸借契約(債券貸借取引)により貸し付けている有価証券が、国債に含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

52,863百万円

※3. 銀行法及び金融機能の再生のための緊急措置に関する法律に基づく債権は次のとおりであります。なお、債権は、貸借対照表の「有価証券」中の社債(その元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)によるものに限る。)、貸出金、外国為替、「その他資産」中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに注記されている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。)であります。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	15,584百万円
危険債権額	27,384百万円
三月以上延滞債権額	1,491百万円
貸出条件緩和債権額	5,303百万円
合計額	49,763百万円

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権並びに危険債権に該当しないものであります。

貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権並びに三月以上延滞債権に該当しないものであります。

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※4. 手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

7,035百万円

※5. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	134,231百万円
担保資産に対応する債務	
預金(日本銀行代理店契約によるもの)	12,476百万円
借入金	112,800百万円

上記のほか、為替決済、公金事務取扱等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券	1,593百万円
その他の資産(中央清算機関差入証拠金)	20,000百万円
(その他の資産)	42百万円

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	276百万円
-----	--------

※6. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	362,526百万円
---------	------------

うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	350,785百万円
------------------------------------	------------

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

※7. 有形固定資産の圧縮記帳額

圧縮記帳額	696百万円
-------	--------

(当事業年度の圧縮記帳額)

一百万円

※8. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

18,626百万円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生主な原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	9,122百万円
減価償却	745百万円
繰延ヘッジ損益	130百万円
その他	2,166百万円
繰延税金資産小計	12,165百万円
評価性引当額	△2,636百万円
繰延税金資産合計	9,528百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	△245百万円
その他有価証券評価差額金	△18,309百万円
繰延税金負債合計	△18,554百万円
繰延税金負債の純額	△9,026百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.4%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△4.2%
住民税均等割等	0.3%
評価性引当額の増減	2.4%
その他	△1.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.1%

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表の「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

子会社の設立

連結財務諸表の「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

■リスク管理債権額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権額	15,646	15,584
危険債権額	27,159	27,384
三月以上延滞債権額	254	1,491
貸出条件緩和債権額	7,328	5,303
合計額	50,388	49,763
正常債権	2,092,479	2,148,551

部分直接償却実施額	18,610	16,548
-----------	--------	--------

業種別リスク管理債権額

(百万円、%)

	2022年3月期	2023年3月期
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定分)	50,388 (2.4)	49,763 (2.3)
製造業	8,658 (0.4)	9,083 (0.4)
農業、林業	584 (0.0)	588 (0.0)
漁業	22 (0.0)	21 (0.0)
鉱業、採石業、砂利採取業	- (-)	557 (0.0)
建設業	3,849 (0.2)	3,651 (0.2)
電気・ガス・熱供給・水道業	- (-)	0 (0.0)
情報通信業	179 (0.0)	304 (0.0)
運輸業、郵便業	2,862 (0.1)	3,299 (0.2)
卸売業、小売業	11,379 (0.5)	9,683 (0.4)
金融業、保険業	9 (0.0)	9 (0.0)
不動産業、物品賃貸業	5,584 (0.3)	5,679 (0.3)
各種サービス業	14,393 (0.7)	13,798 (0.6)
地方公共団体	- (-)	- (-)
その他	2,864 (0.2)	3,084 (0.2)
国内店名義現地貸	- (-)	- (-)

(注) 1. ()は総与信残高(国内店)に占める割合であります。
2. 「各種サービス業」の内訳は、「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業」「飲食業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療・福祉」「その他のサービス」となっております。

■資産査定額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	15,646	15,584
危険債権	27,159	27,384
要管理債権	7,582	6,794
正常債権	2,092,479	2,148,551

(注) 資産の査定は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」(1998年法律第132号)第6条に基づき、当行の貸借対照表の社債(当該社債を有する金融機関がその元本の償還及び利息の支払の全部又は一部について保証しているものであって、当該社債の発行が金融商品取引法(1948年法律第25号)第2条第3項に規定する有価証券の私募によるものに限る。)、貸出金、外国為替、その他資産中の未収利息及び仮払金、支払承諾見返の各勘定に計上されるもの並びに貸借対照表に注記することとされている有価証券の貸付けを行っている場合のその有価証券(使用貸借又は貸借契約によるものに限る。))について債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として区分するものであります。

■単体自己資本比率 (国内基準)

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(2006年金融庁告示第19号。)に定められた算式に基づき、算出しております。

なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出においては、粗利益配分手法を採用しております。

(百万円)

	2022年3月末	2023年3月末
(1) 単体自己資本比率 ((2) / (3))	10.97%	10.89%
(2) 単体における自己資本の額	218,087	223,995
(3) リスク・アセットの額	1,987,745	2,056,157
(4) 単体総所要自己資本額 ((3) × 4%)	79,509	82,246

詳しくは、別冊「バーゼルⅢディスクロージャー誌2023」をご参照ください。

用語説明

破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

危険債権とは

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しないものであります。

要管理債権とは

三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権であります。

正常債権とは

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権であります。

■損益の状況

業務粗利益・業務粗利益率

(百万円、%)

		2022年3月期	2023年3月期
業務粗利益	国内業務部門	40,280	41,585
	国際業務部門	4,333	△13,102
	計	44,613	28,483
業務粗利益率	国内業務部門	1.12	1.17
	国際業務部門	1.43	△3.86
	計	1.21	0.78
経費（除く臨時経費）		28,139	27,755
実質業務純益		16,474	728
コア業務純益		17,765	19,325
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)		17,575	18,852
業務純益		15,896	1,169

(注) 国内業務部門は国内店の円建取引、国際業務部門は国内店の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引動定分は国際業務部門に含めております。

資金運用収支等

(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期
国内業務部門	資金運用収支	33,402	34,464
	役務取引等収支	6,841	6,637
	特定取引収支	—	—
	その他業務収支	36	484
国際業務部門	資金運用収支	4,587	2,944
	役務取引等収支	111	65
	特定取引収支	—	—
	その他業務収支	△364	△16,112

その他業務収支の内訳

(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期
国内業務部門	商品有価証券売買損益	△1	—
	国債等債券売却損益	16	△1,706
	国債等債券償還損益	—	2
	金融派生商品損益	—	2,183
	その他	21	4
合計		36	484
国際業務部門	外国為替売買損益	870	545
	国債等債券売却損益	△1,304	△16,873
	金融派生商品損益	70	214
	その他	—	—
合計		△364	△16,112
総合計		△328	△15,628

役務取引等収支の内訳

(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期
国内業務部門	役務取引等収益	7,978	7,780
	うち預金・貸出業務	1,320	1,236
	うち為替業務	1,347	1,233
	うち証券関連業務	2,411	1,855
	うち代理業務	1,061	1,639
	役務取引等費用	1,136	1,143
うち為替業務	262	181	
役務取引等収支		6,841	6,637
国際業務部門	役務取引等収益	178	141
	うち預金・貸出業務	—	—
	うち為替業務	169	133
	うち証券関連業務	—	—
	役務取引等費用	66	76
うち為替業務	40	47	
役務取引等収支		111	65
合計		6,952	6,702

営業経費の内訳

(百万円)

		2022年3月期	2023年3月期
給料・手当		8,305	8,792
退職給付費用		822	814
福利厚生費		230	175
減価償却費		2,905	2,862
土地建物機械賃借料		663	703
営繕費		174	110
消耗品費		416	308
給水光熱費		232	279
旅費		46	85
通信費		588	578
広告宣伝費		244	244
租税公課		1,868	1,752
その他		11,806	11,207
合計		28,306	27,914

(注) 損益計算書中「営業経費」の内訳であります。

資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高等

(百万円、%)

	2022年3月期			2023年3月期			
	平均残高	利息	利回	平均残高	利息	利回	
国内業務部門	資金運用勘定	3,567,674	34,181	0.95	3,545,950	35,115	0.99
	うち貸出金	2,027,183	23,062	1.13	2,068,642	22,576	1.09
	うち有価証券	721,151	10,390	1.44	748,170	11,979	1.60
	うち預け金	629,850	698	0.11	469,729	525	0.11
	資金調達勘定	3,462,818	778	0.02	3,425,078	651	0.01
	うち預金	3,043,843	163	0.00	3,104,141	150	0.00
	うち譲渡性預金	159,277	14	0.00	161,852	12	0.00
	うち借入金	247,660	0	0.00	152,702	0	0.00
国内資金運用収支	—	33,402	—	—	34,464	—	
国際業務部門	資金運用勘定	302,127	5,431	1.79	339,144	9,888	2.91
	うち貸出金	46,932	724	1.54	61,972	2,219	3.58
	うち有価証券	215,463	4,595	2.13	154,202	4,184	2.71
	うちコールローン	28,672	108	0.37	109,901	3,479	3.16
	資金調達勘定	297,532	844	0.28	326,246	6,943	2.12
	うち預金	69,797	271	0.38	62,795	672	1.07
	うちコールマネー	7,457	32	0.43	2,563	31	1.22
	うち債券貸借取引受入担保金	37,515	74	0.19	21,594	327	1.51
国際資金運用収支	—	4,587	—	—	2,944	—	

(注) 国際業務部門の国内店外貸建取引の平均残高は、月次カレント方式（前月末TT 仲値を当該月のノンエクスチェンジ取引に適用する方式）により算出しております。

利鞘（資金運用利回、資金調達原価、総資金利鞘） (%)

	2022年3月期	2023年3月期	
国内業務部門	資金運用利回	0.95	0.99
	資金調達原価	0.82	0.81
	総資金利鞘	0.13	0.18
国際業務部門	資金運用利回	1.79	2.91
	資金調達原価	0.45	2.28
	総資金利鞘	1.34	0.63
合計	資金運用利回	1.07	1.23
	資金調達原価	0.83	1.00
	総資金利鞘	0.24	0.23

利益率 (%)

	2022年3月期	2023年3月期
総資産経常利益率	0.41	0.39
資本（純資産）経常利益率	7.39	6.79
総資産当期純利益率	0.28	0.26
資本（純資産）当期純利益率	5.20	4.62

(注) 1. 総資産経常（当期純）利益率 = $\frac{\text{経常（当期純）利益}}{\text{総資産（除く支払承諾見返）平均残高}} \times 100$

2. 資本（純資産）経常（当期純）利益率 = $\frac{\text{経常（当期純）利益}}{\text{資本（純資産）勘定平均残高}} \times 100$

受取利息・支払利息の増減

(百万円)

	2022年3月期			2023年3月期			
	残高による増減	利率による増減	純増減	残高による増減	利率による増減	純増減	
国内業務部門	受取利息	3,433	△2,595	838	△208	1,142	934
	うち貸出金	563	△613	△50	471	△957	△486
	うち有価証券	△169	588	419	389	1,200	1,589
	うち預け金	141	332	473	△177	4	△173
	支払利息	89	△216	△127	△8	△119	△127
	うち預金	13	△65	△52	3	△16	△13
	うち譲渡性預金	0	△9	△9	0	△2	△2
	うち借入金	0	△0	△0	△0	0	0
国際業務部門	受取利息	1,057	△536	521	665	3,792	4,457
	うち貸出金	160	△60	100	232	1,263	1,495
	うち有価証券	468	△141	327	△1,306	895	△411
	うちコールローン	97	△2	95	307	3,064	3,371
	支払利息	267	△642	△375	81	6,018	6,099
	うち預金	△34	△117	△151	△27	428	401
	うちコールマネー	△50	△23	△73	△21	20	△1
	うち債券貸借取引受入担保金	69	△119	△50	△31	284	253

(注) 残高及び利率の増減要因が重なる部分については、利率による増減に含めて記載しております。

■営業の状況

預金業務

預金科目別残高

(百万円、%)

	期末残高		平均残高		
	2022年3月期	2023年3月期	2022年3月期	2023年3月期	
国内業務部門	流動性預金	2,122,277 (68.4)	2,246,357 (70.3)	2,067,129 (67.9)	2,146,325 (69.1)
	定期性預金	946,729 (30.5)	917,411 (28.7)	968,906 (31.8)	949,703 (30.6)
	うち固定金利定期預金	938,521 (30.2)	908,881 (28.4)	960,749 (31.6)	941,890 (30.3)
	うち変動金利定期預金	1,504 (0.0)	1,457 (0.0)	1,545 (0.1)	1,480 (0.0)
	その他の預金	33,656 (1.1)	32,715 (1.0)	7,808 (0.3)	8,113 (0.3)
	小計	3,102,663 (100.0)	3,196,484 (100.0)	3,043,843 (100.0)	3,104,141 (100.0)
	譲渡性預金	137,504	134,006	159,277	161,852
合計	3,240,168	3,330,491	3,203,121	3,265,994	
国際業務部門	流動性預金	—	—	—	—
	定期性預金	—	—	—	—
	うち固定金利定期預金	—	—	—	—
	うち変動金利定期預金	—	—	—	—
	その他の預金	69,362 (100.0)	60,620 (100.0)	69,797 (100.0)	62,795 (100.0)
	小計	69,362 (100.0)	60,620 (100.0)	69,797 (100.0)	62,795 (100.0)
	譲渡性預金	—	—	—	—
合計	69,362	60,620	69,797	62,795	
総合計	3,309,531	3,391,111	3,272,918	3,328,789	

- (注) 1. 流動性預金は当座預金、普通預金、貯蓄預金、通知預金であります。
 2. 定期性預金は定期預金、定期積金であります。
 固定金利定期預金：預入時に満期日までの利率が確定する定期預金
 変動金利定期預金：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期預金
 3. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。
 4. () は構成比です。

定期預金の残存期間別残高

(百万円)

		3ヵ月未満	3ヵ月以上6ヵ月未満	6ヵ月以上1年未満	1年以上2年未満	2年以上3年未満	3年以上	合計
2022年3月期	定期預金	235,961	181,069	357,569	81,744	62,594	21,085	940,026
	うち固定金利定期預金	235,863	180,949	357,170	81,139	62,310	21,085	938,521
	うち変動金利定期預金	97	119	398	605	283	—	1,504
2023年3月期	定期預金	239,185	185,432	343,963	71,576	49,304	20,875	910,339
	うち固定金利定期預金	239,024	185,338	343,662	71,129	48,852	20,875	908,881
	うち変動金利定期預金	161	93	301	447	452	—	1,457

預金者別残高

(百万円、%)

	2022年3月期	2023年3月期
個人	2,060,683 (65.0)	2,073,067 (63.6)
法人・その他	1,111,343 (35.0)	1,184,037 (36.4)
合計	3,172,026 (100.0)	3,257,104 (100.0)

(注) () は構成比です。

財形貯蓄残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
一般財形預金	15,643	15,184
財形住宅預金	1,460	1,385
財形年金預金	4,963	4,437
合計	22,067	21,007

その他の状況

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
1店舗当たりの預金残高	34,118	34,959
従業員1人当たりの預金残高	2,571	2,628

(注) 預金額には譲渡性預金を含んでおります。

貸出業務

貸出金科目別残高

(百万円、%)

		期末残高		平均残高	
		2022年3月期	2023年3月期	2022年3月期	2023年3月期
国内業務部門	割引手形	6,764 (0.3)	6,977 (0.3)	6,639 (0.3)	7,010 (0.3)
	手形貸付	99,177 (4.8)	95,540 (4.6)	100,113 (4.9)	96,575 (4.7)
	証書貸付	1,863,689 (90.5)	1,905,285 (90.5)	1,849,943 (91.3)	1,883,622 (91.1)
	当座貸越	89,171 (4.4)	96,643 (4.6)	70,488 (3.5)	81,432 (3.9)
	合計	2,058,802 (100.0)	2,104,446 (100.0)	2,027,183 (100.0)	2,068,642 (100.0)
国際業務部門	割引手形	—	—	—	—
	手形貸付	4,549 (8.2)	3,100 (4.8)	3,753 (8.0)	3,852 (6.2)
	証書貸付	50,950 (91.8)	62,138 (95.2)	43,179 (92.0)	58,120 (93.8)
	当座貸越	—	—	—	—
	合計	55,500 (100.0)	65,239 (100.0)	46,932 (100.0)	61,972 (100.0)
総合計	2,114,303	2,169,686	2,074,116	2,130,614	

(注) 1. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。

2. () は構成比です。

貸出金の残存期間別残高

(百万円)

		1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超	期間の定めのないもの	合計
		2022年3月期	貸出金	584,241	355,275	295,615	209,368	580,630
	うち固定金利	—	175,030	169,524	134,915	431,031	—	—
	うち変動金利	—	180,244	126,090	74,452	149,599	89,171	—
2023年3月期	貸出金	581,111	381,687	317,993	216,738	575,511	96,643	2,169,686
	うち固定金利	—	184,310	173,924	133,611	420,250	—	—
	うち変動金利	—	197,376	144,069	83,126	155,261	96,643	—

(注) 残存期間1年以下の貸出金については、固定金利、変動金利の区別をしておりません。

貸出金担保別内訳

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
有価証券	2,097	2,047
債権	7,312	5,896
商品	245	195
不動産	439,681	451,125
その他	—	—
小計	449,336	459,264
保証	1,286,417	1,268,651
信用	378,549	441,769
合計	2,114,303	2,169,686

(注) 小口の貸出金等のうち、一部につきましては「保証」に含めて表示しております。

支払承諾見返担保別内訳

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
有価証券	557	518
債権	733	512
商品	—	—
不動産	3,136	2,253
その他	—	—
小計	4,427	3,283
保証	321	471
信用	3,733	5,170
合計	8,482	8,924

貸出金使途別内訳

(百万円、%)

	2022年3月期		2023年3月期	
	貸出金残高	構成比	貸出金残高	構成比
設備資金	986,964 (46.7)		1,007,401 (46.4)	
運転資金	1,127,339 (53.3)		1,162,285 (53.6)	
合計	2,114,303 (100.0)		2,169,686 (100.0)	

その他の状況

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
1店舗当たりの貸出金残高	21,796	22,367
従業員1人当たりの貸出金残高	1,642	1,681

単体情報 営業の状況

貸出金業種別内訳

(件、百万円、%)

	2022年3月期			2023年3月期		
	貸出先数	貸出金残高	(構成比)	貸出先数	貸出金残高	(構成比)
国内店 (除く特別国際金融取引勘定分)	73,749	2,114,303	(100.0)	72,939	2,169,686	(100.0)
製造業	2,449	288,652	(13.7)	2,437	293,283	(13.5)
農業、林業	275	7,688	(0.4)	275	7,685	(0.4)
漁業	37	1,017	(0.0)	33	923	(0.0)
鉱業、採石業、砂利採取業	12	1,338	(0.1)	11	1,234	(0.1)
建設業	1,798	90,614	(4.3)	1,849	95,440	(4.4)
電気・ガス・熱供給・水道業	384	59,143	(2.8)	399	57,822	(2.7)
情報通信業	133	13,559	(0.6)	129	12,850	(0.6)
運輸業、郵便業	669	125,762	(5.9)	666	129,873	(6.0)
卸売業、小売業	3,231	269,097	(12.7)	3,237	276,624	(12.8)
金融業、保険業	91	91,208	(4.3)	109	111,509	(5.1)
不動産業、物品賃貸業	2,718	299,773	(14.2)	2,707	299,819	(13.8)
各種サービス業	4,346	303,750	(14.4)	4,362	297,722	(13.7)
地方公共団体	31	177,905	(8.4)	32	176,288	(8.1)
その他	57,559	358,716	(17.0)	56,676	371,732	(17.1)
国内店名義現地貸	16	26,070	(1.2)	17	36,871	(1.7)
特別国際金融取引勘定分	—	—	—	—	—	—
合計	73,749	2,114,303	—	72,939	2,169,686	—

(注)「各種サービス業」の内訳は、「学術研究、専門・技術サービス業」「宿泊業」「飲食業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療・福祉」「その他サービス」となっております。

中小企業等貸出金残高

(件、百万円、%)

	2022年3月期	2023年3月期
中小企業等貸出金残高 (A)	1,755,430	1,791,821
総貸出金残高 (B)	2,114,303	2,169,686
中小企業等貸出金比率 (A) / (B)	83.02	82.58
中小企業等貸出先件数 (C)	73,510	72,685
総貸出先件数 (D)	73,749	72,939
中小企業等貸出先件数比率 (C) / (D)	99.67	99.65

(注) 1. 貸出金残高には、特別国際金融取引勘定分は含まれておりません。
2. 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等であります。

特定海外債権残高

該当事項はありません。

預貸率

(%)

		2022年3月期	2023年3月期
期末	国内業務部門	63.53	63.18
	国際業務部門	80.01	107.61
	合計	63.88	63.98
期中平均	国内業務部門	63.28	63.33
	国際業務部門	67.24	98.69
	合計	63.37	64.00

(注) 預金には譲渡性預金を含めております。

消費者ローン残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
住宅ローン	301,767	315,702
その他ローン	24,060	24,352
合計	325,828	340,054

貸倒引当金内訳

(百万円)

	2022年3月期					2023年3月期				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	5,024	5,602	—	5,024 ^{*1}	5,602	5,602	5,160	—	5,602 ^{*1}	5,160
個別貸倒引当金	10,642	13,193	2,107	10,577 ^{*2}	11,149	11,149	12,434	1,248	11,103 ^{*2}	11,232
うち非居住者向け債権分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特定海外債権引当勘定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	15,667	18,795	2,107	15,602	16,752	16,752	17,595	1,248	16,705	16,393

(注) ※1 洗替による取崩額であります。
※2 主として洗替による取崩額であります。

貸出金償却額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
貸出金償却額	18	9

証券業務

商品有価証券平均残高等

(百万円)

	2022年3月期		2023年3月期	
	売買高	平均残高	売買高	平均残高
商品国債	510	6	—	—
商品地方債	598	21	—	—
商品政府保証債	—	—	—	—
その他の商品有価証券	—	—	—	—
合計	1,108	27	—	—

有価証券の残存期間別残高

(百万円)

	2022年3月期								2023年3月期							
	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計	1年以下	1年超 3年以下	3年超 5年以下	5年超 7年以下	7年超 10年以下	10年超	期間の定め のないもの	合計
国債	33,251	43,273	4,308	12,790	9,088	71,070	—	173,782	19,612	25,132	9,538	11,229	21,075	61,002	—	147,591
地方債	19,151	38,159	37,758	24,721	20,490	27,486	—	167,769	19,513	44,295	31,499	19,527	14,670	41,180	—	170,687
短期社債	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社債	19,598	25,919	20,950	13,514	22,703	70,421	—	173,109	30,231	46,306	62,692	19,062	28,344	77,191	—	263,829
株式	—	—	—	—	—	—	143,947	143,947	—	—	—	—	—	—	124,741	124,741
その他の証券	30,035	77,868	48,951	33,053	36,199	4,066	153,153	383,328	13,963	17,134	20,429	10,356	5,883	1,349	169,465	238,582
うち外国債券	30,035	77,868	48,951	33,053	36,199	4,066	—	230,174	13,963	17,134	20,429	10,356	5,883	1,349	—	69,116
うち外国株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	102,037	185,221	111,969	84,079	88,481	173,045	297,100	1,041,936	83,321	132,868	124,161	60,176	69,974	180,724	294,206	945,432

有価証券残高

(百万円、%)

	期末残高		平均残高		
	2022年3月期	2023年3月期	2022年3月期	2023年3月期	
国内業務部門	国債	173,782 (21.4)	147,591 (16.9)	177,433 (24.6)	148,171 (19.8)
	地方債	167,769 (20.7)	170,687 (19.5)	176,634 (24.5)	169,363 (22.6)
	短期社債	—	—	—	—
	社債	173,109 (21.3)	263,829 (30.1)	162,555 (22.5)	214,041 (28.6)
	株式	143,947 (17.7)	124,741 (14.2)	70,712 (9.8)	67,610 (9.1)
	その他の証券	153,153 (18.9)	169,465 (19.3)	133,815 (18.6)	148,982 (19.9)
	うち外国債券	—	—	—	—
	うち外国株式	—	—	—	—
合計	811,761 (100.0)	876,316 (100.0)	721,151 (100.0)	748,170 (100.0)	
国際業務部門	国債	—	—	—	—
	地方債	—	—	—	—
	短期社債	—	—	—	—
	社債	—	—	—	—
	株式	—	—	—	—
	その他の証券	230,174 (100.0)	69,116 (100.0)	215,463 (100.0)	154,202 (100.0)
	うち外国債券	230,174 (100.0)	69,116 (100.0)	215,463 (100.0)	154,202 (100.0)
うち外国株式	—	—	—	—	
合計	230,174 (100.0)	69,116 (100.0)	215,463 (100.0)	154,202 (100.0)	
総合計	1,041,936	945,432	936,615	902,372	

(注) 1. 国際業務部門の国内店外貨建取引の平均残高は、月次カレント方式により算出しております。
2. () は構成比です。

預証率

(%)

	2022年3月期	2023年3月期	
期末	国内業務部門	25.05	26.31
	国際業務部門	331.84	114.01
	合計	31.48	27.87
期中平均	国内業務部門	22.51	22.90
	国際業務部門	308.69	245.56
	合計	28.61	27.10

(注) 預金には譲渡性預金を含めております。

公共債引受額

該当事項はありません。

公共債・投資信託窓口販売実績

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
国債	282	—
地方債	—	—
政府保証債	—	—
合計	282	—
証券投資信託	8,147	—

(注) 表示単位未満を四捨五入しております。

単体情報 営業の状況

信託業務

信託財産残高表

(百万円、%)

資産	2022年3月期		2023年3月期		負債	2022年3月期		2023年3月期	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)		金額	(構成比)	金額	(構成比)
有価証券	75	(20.9)	82	(23.5)	金銭信託	359	(100.0)	349	(100.0)
現金預け金	284	(79.1)	267	(76.5)					
合計	359	(100.0)	349	(100.0)	合計	359	(100.0)	349	(100.0)

(注) 共同信託他社管理財産一百万円。

元本補填契約のある信託の受託残高

該当事項はありません。

金銭信託の期間別元本残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
1年未満	—	—
1年以上2年未満	—	—
2年以上5年未満	—	—
5年以上	359	349
その他のもの	—	—
合計	359	349

(注) 貸付信託については該当ありません。

金銭信託の受託残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
元本	359	349
その他	—	—
合計	359	349

(注) 年金信託、財産形成給付信託及び貸付信託については該当ありません。

金銭信託に係る有価証券残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
国債	45	32
地方債	30	50
短期社債	—	—
社債	—	—
株式	—	—
その他の証券	—	—
合計	75	82

(注) 年金信託、財産形成給付信託及び貸付信託については該当ありません。

金銭信託の運用残高

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
貸出金	—	—
有価証券	75	82
暗号資産	—	—
合計	75	82

(注) 年金信託、財産形成給付信託及び貸付信託については該当ありません。

その他の状況

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
1店舗当たりの信託資金受入状況	3	3
従業員1人当たりの信託資金受入状況	0	0

(注) 信託資金量は金銭信託の信託財産額です。

国際・内国為替業務

外国為替取扱高

(百万米ドル)

		2022年3月期	2023年3月期
仕向為替	売渡為替	1,979	1,944
	買入為替	1,469	1,313
被仕向為替	支払為替	916	899
	取立為替	14	10
合計		4,380	4,166

内国為替取扱高

(千口、百万円)

		2022年3月期		2023年3月期	
		口数	金額	口数	金額
送金為替	各地へ向けた分	9,379	13,096,410	9,533	13,783,546
	各地より受けた分	9,588	12,998,464	9,898	13,884,563
代金取立	各地へ向けた分	62	761,832	60	997,015
	各地より受けた分	63	812,936	61	1,041,776

■有価証券等の時価情報

有価証券関係

貸借対照表の「国債」「地方債」「社債」「株式」「その他の証券」のほか、「商品有価証券」並びに「買入金銭債権」中の信託受益権が含まれております。

1. 売買目的有価証券

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の債券

該当事項はありません。

3. 子会社株式等及び関連会社株式等

(百万円)

	2022年3月期			2023年3月期		
	貸借対照表計上額	時価	差額	貸借対照表計上額	時価	差額
子会社株式及び出資金	—	—	—	—	—	—
関連会社株式及び出資金	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—

(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
子会社株式及び出資金	14,101	14,306
関連会社株式及び出資金	87	60

4. その他有価証券

(百万円)

種類	2022年3月期			2023年3月期			
	貸借対照表計上額	取得原価	差額	貸借対照表計上額	取得原価	差額	
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	120,480	46,912	73,567	101,027	40,375	60,651
	債券	247,170	240,741	6,429	258,307	252,286	6,021
	国債	116,184	112,330	3,853	98,061	94,321	3,740
	地方債	75,921	74,651	1,269	70,904	69,675	1,228
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	55,065	53,759	1,305	89,341	88,288	1,052
	その他	203,163	187,004	16,159	101,340	91,191	10,149
	小計	570,815	474,658	96,156	460,675	383,853	76,822
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	4,872	5,529	△657	5,069	5,748	△678
	債券	267,490	272,037	△4,546	323,801	332,443	△8,641
	国債	57,598	59,672	△2,073	49,530	51,797	△2,267
	地方債	91,847	92,627	△779	99,783	101,580	△1,797
	短期社債	—	—	—	—	—	—
	社債	118,043	119,737	△1,693	174,488	179,065	△4,577
	その他	170,158	177,640	△7,482	126,379	133,342	△6,963
	小計	442,520	455,207	△12,686	455,250	471,533	△16,283
合計	1,013,335	929,866	83,469	915,926	855,386	60,539	

(注) 上表に含まれない市場価格のない株式等及び組合出資金の貸借対照表計上額

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
非上場株式 (※1)	5,751	5,800
組合出資金 (※2)	8,861	9,442

(※1) 非上場株式については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2020年3月31日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

(※2) 組合出資金については「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日)第24-16項に基づき、時価開示の対象とはしていません。

5. 当事業年度中に売却した満期保有目的の債券

該当事項はありません。

6. 当事業年度中に売却したその他有価証券

(百万円)

	2022年3月期			2023年3月期		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	4,082	1,442	348	29,487	14,079	161
債券	27,315	122	103	80,763	644	2,347
国債	9,830	79	11	49,563	599	1,638
地方債	9,717	7	48	17,606	0	400
短期社債	—	—	—	—	—	—
社債	7,767	34	44	13,593	44	309
その他	43,619	1,469	1,722	184,237	1,207	16,879
合計	75,017	3,034	2,175	294,489	15,931	19,388

7. 減損処理を行った有価証券

売買目的有価証券以外の有価証券(市場価格のない株式等及び組合出資金を除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって貸借対照表計上額とするとともに、評価差額を当事業年度の損失として処理(以下、「減損処理」という。)しております。

前事業年度における減損処理額は95百万円(うち、株式93百万円、社債2百万円)であります。

当事業年度における減損処理額は39百万円(うち、株式18百万円、社債21百万円)であります。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、時価が取得原価に比べて50%以上下落した場合、又は、30%以上50%未満下落した場合において、過去の一定期間における時価の推移並びに当該発行会社の業績等を勘案した基準により行っております。

なお、上記のほか、市場価格のない株式等及び組合出資金の、前事業年度における減損処理額は63百万円(うち、株式63百万円、その他一百万円)、当事業年度における減損処理はありません。

金銭の信託関係

1. 運用目的の金銭の信託

該当事項はありません。

2. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

3. その他の金銭の信託(運用目的及び満期保有目的以外)

該当事項はありません。

その他有価証券評価差額金

貸借対照表に計上されているその他有価証券評価差額金の内訳は、次のとおりであります。

(百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(注)
評価差額	83,551	60,705
その他有価証券	83,551	60,705
その他の金銭の信託	—	—
(+) 繰延税金資産	—	—
(△) 繰延税金負債	25,205	18,309
その他有価証券評価差額金	58,346	42,395

(注) 評価差額には、組合等の構成資産であるその他有価証券に係る評価差額(前事業年度82百万円(益)、当事業年度165百万円(益))を含めております。

■デリバティブ取引情報

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

該当事項はありません。

(2) 通貨関連取引

(百万円)

区分	種類	2022年3月期				2023年3月期			
		契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物	—	—	—	—	—	—	—	—
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—	—	—	—	—	—
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
店頭	通貨スワップ	6,159	6,159	—	4	48,230	38,030	△576	△568
	為替予約	147,713	54,482	△5,071	△5,071	106,697	54,039	12	12
	売建	117,022	27,124	△9,739	△9,739	49,275	27,015	△5,250	△5,250
	買建	30,690	27,358	4,667	4,667	57,421	27,024	5,262	5,262
	通貨オプション	109,920	—	—	258	29,612	—	—	27
	売建	54,960	—	△1,376	△1,008	14,806	—	△214	△79
	買建	54,960	—	1,376	1,266	14,806	—	214	106
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
	売建	—	—	—	—	—	—	—	—
	買建	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	△5,071	△4,808	—	—	△564	△529	

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を損益計算書に計上しております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1) 金利関連取引

(百万円)

ヘッジ方法	種類	2022年3月期				2023年3月期			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価
原則的処理	金利スワップ	有価証券	83,025	70,073	△132	有価証券	76,473	75,521	△719
	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	83,025	70,073	△132	76,473	75,521	△719	—	
金利スワップの特例処理	金利スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—
	受取固定・支払変動	—	—	—	—	—	—	—	—
	受取変動・支払固定	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	△132	—	—	—	△719	

(注) 主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号2022年3月17日)に基づき、繰延ヘッジによるものです。

(2) 通貨関連取引

(百万円)

ヘッジ方法 の 会計	種類	2022年3月期				2023年3月期			
		主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超のもの	時価
原則的 処理	通貨スワップ	外貨建の有価証券	76,311	42,836	△7,179	外貨建の有価証券	81,453	40,059	△9,491
	為替予約	外貨建の貸出金 外貨建コールローン	21,811	—	△923	外貨建の貸出金 外貨建コールローン	131,807	—	△2
為替予約 等 の 振当 処理	通貨スワップ	—	—	—	—	—	—	—	—
	為替予約	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	△8,102	—	—	—	△9,494

(注) 主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号2020年10月8日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

■暗号資産

該当事項はありません。

■会計監査人の監査の状況

1. 当行は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、会計監査人の監査を受けております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(自2021年4月1日 至2022年3月31日)及び当事業年度(自2022年4月1日 至2023年3月31日)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。なお、本ディスクロージャー誌の財務諸表は、監査を受けた財務諸表の内容、様式を一部変更・追加して作成しています。

